

2020年度入学生カリキュラム

目次

目次	1
学部カリキュラム	
1 京都文教大学での学び	2
1 京都文教大学の学士力(KBU学士力)	2
2 基盤教育科目	3
2 総合社会学部	6
総合社会学科の3つのポリシー	6
総合社会学科のカリキュラム	9
●経済・経営コース	9
●メディア・社会心理コース	10
●公共政策コース	11
●国際文化コース	12
●観光・地域デザインコース	13
カリキュラム表 総合社会学科2020年度入学生対象	14
3 臨床心理学部	27
臨床心理学科の3つのポリシー	27
臨床心理学科のカリキュラム	28
カリキュラム表 臨床心理学科2020年度入学生対象	30
4 こども教育学部	40
こども教育学科の3つのポリシー	40
こども教育学科のカリキュラム	43
カリキュラム表 こども教育学科2020年度入学生対象	44
大学院カリキュラム	
1 臨床心理学研究科	49
臨床心理学研究科の教育理念と3つのポリシー	49
カリキュラム表 臨床心理学研究科博士後期課程2009年度以降入学生対象	51

学部カリキュラム

1 京都文教大学での学び

1 京都文教大学の学士力(KBU学士力)

専攻する学部・学科にかかわらず、大学卒業までに学生が身につけるべき能力を定義したものを「学士力」といいます。

京都文教大学では、建学の理念に基づき、学士力を以下のように定めています。

1. 共生社会を実現できる力(社会的価値創造力)

共生社会(自他共に幸せを感じられる人間関係・社会組織・地域社会)という新たな価値を創り出す力。これは「菩薩力」と言い換えることも可能である。

2. どんな場面でも役に立つ知力(汎用的知力)

基盤となる教養と専門的知識、またそれらを応用して問題を解決する力(情報処理力・考察力・構想力)。

3. 現場で必要とされる力(現場実践力)

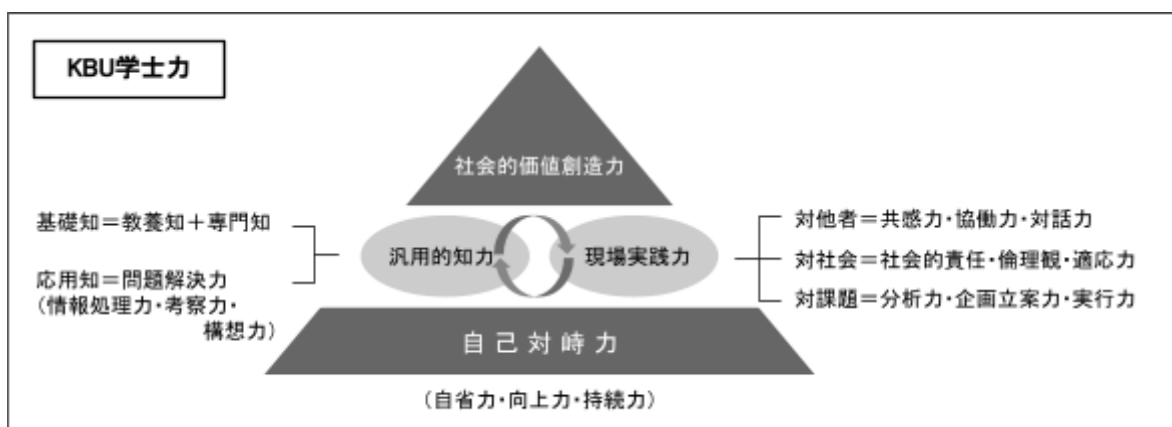
現実社会の様々な場面が必要とされる力。具体的には、他者に対する共感力・協働力・対話力、社会に対する社会的責任・倫理観・適応力、課題に対する分析力・企画立案力・実行力をいう。

4. 自分自身と向き合う力(自己対峙力)

自分自身と向かい合う力(自省力・向上心・持続力)。これがすべての力の基盤となる。

◇ 相互の関係

自己対峙力を基盤とし、汎用的知力と現場実践力との相互作用(往復運動)を通じて、最終的に社会的価値創造力を獲得する。これを構造化すると、次のようになる。



2 基盤教育科目

1) 基盤教育科目の教育目標

本学の教育目標は「KBU学士力」の養成を通じて「社会的価値創造力」をもった「ともいき人材」を養成することにあります。こうした力は、各学部学科の専門の学びを通じて達成されるものですが、基盤教育科目は専門教育と連動提携することで、そのような学びが十全に働くことを目標としています。

基盤教育科目は、「KBUアイデンティティ科目」「学習スキル科目」「ライフデザイン科目」「ワークデザイン科目」「ともいき教養科目」「コミュニケーション科目」「ともいき実践科目」の7つの科目群によって構成されており、それらを学ぶことで「自己対峙力(自分自身と向き合う力)」、「汎用的能力(どんな場面でも役に立つ知力)」、「現場実践力(現場で必要とされる力)」の育成をめざします。

2) 各科目群の教育内容および教育方法

各科目群には、その科目群の目的に対応した科目が複数設定されています。一つ一つの科目は、その科目固有の目的に応じた教育内容を提供しますが、科目群の中の他の科目と連携することで、その教育効果を高めます。また提供される科目は、それぞれもっとも効果的な教育方法を用いることで、科目群全体の教育効果を高めるように構成されています。

① 「KBUアイデンティティ科目」

KBUアイデンティティ科目は、仏教精神に基づく本学の「建学の理念」を学びながら、自分自身と向き合う「自己対峙」の経験をとおして、個々の学生がアイデンティティを確立することを目指す科目群です。仏教・大学・地域社会への理解を促す入門科目を通じて、「ともいき」とは何かを探究し、共生社会を実現する意志と共感力を養成します。「大学入門」では、新入生が京都文教大学での学習および生活を円滑にスタートさせるために、京都文教大学とその教育の理念を学びます。また「地域入門」は、地域とともにある本学のすがたについて学びます。「仏教入門」では、建学の理念の根幹にある仏教の教えについて学びます。

② 「学習スキル科目」

大学で深い学びを実現するためには、まず学習それ自体に必要なスキル(学習スキル)を身につけることが必要です。そのため、本学では「初年次教育」を重視し、学生が1年次から大学レベルの学びへとスムーズに移行できるよう積極的に支援しています。そのため「初年次演習」「書く技法」「情報機器演習」「映像制作活用演習」の科目を設置しています。

「初年次演習」は、大学で必要となる基本的学習スキル全般を学びます。そこには、授業の受け方、情報収集などの幅広い「調査」スキル、グループ討論などによる「対話」型の学習、プレゼンテーションを通じた成果共有などが含まれます。

「書く技法」では、質の高いレポート・論文を作成する能力の育成を目指します。正確な日本語で文章を書く力はもちろん、自己のうちにある問題意識をレポートのテーマに結び付ける「発問」の力、信頼度の高い情報に基づいて状況を「分析」する力、そしてレポート作成に必要なコンピュータの基本的な操作スキルを身につけることができます。

また現代では、大学での学び、および様々な社会的活動をおこなうためには、情報技術の習熟が不可欠です。「情報機器演習」では、「Word」や「Excel」など、社会で幅広く用いられているソフトウェアの基本操作を、教室で実際にコンピュータを使いながらマスターすることができます。さらに、「映像制作活用演習」では、近年ニーズの高まっている動画作品の制作スキルを学びながら、「企画」と「実行」の力を身につけることができます。

③「ライフデザイン科目」

「ライフデザイン科目」は、「ワークデザイン科目」とともに「キャリアデザイン科目」を構成します。私たちは社会において様々な役割を果たしながら人生を営んでいきますが、キャリアとはその役割や役割の軌跡のことを意味しています。したがって、キャリアデザインとは、そうした社会とのかかわりで自分の人生を設計することを意味するわけです。大学で提供される科目は、すべてこうした意味でキャリアにかかわりますが、「キャリアデザイン科目」は、このような大学でのキャリアの学びを、トータルな観点から理解・体得できるように導くための科目です。これらの科目を学ぶことで、自己のキャリアの実現が同時に本学の理念である「ともいき」の精神と深く結びついていることを理解します。

「ライフデザイン科目」は、社会において円滑に活動していくための知識・技能・態度を身につけることを目的とした科目群です。「シチズンシップ論」は、現代の市民が身に着けるべき見識や態度、自らの健康の維持・増進するための知識・技能を実践的に学べるように設計されています。「人権論」においては、すべての人があらゆる立場を越えて自らの意思を最大限に尊重される社会を築く必要があることを学びます。また、「現代とICT」では、情報化社会の中で各人が能動的にふるまうために必要な知識を学びます。「生涯スポーツ」「体育実技」「健康科学」では、生涯にわたって健康な生活を送るために必要な技能や知識について実践的に学びます。

④「ワークデザイン科目」

「ワークデザイン科目」は、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)がとれた豊かな生活を営むために、「ライフデザイン科目」とともに「キャリアデザイン科目」の下位に置かれた科目群です。学生が広い意味で「働くこと」の意義、すなわち、社会での役割を果たし、自己を実現することの意義を理解し、実際にその導きとなる経験を積みながら、学生を社会へと接続させていくことを目的とした科目群です。「キャリアと自己形成」A・B・Cは、入学年次から高年次学年へと進むそれぞれの段階的に応じて、学生個人が「働くこと」に対する具体的なイメージを描き、キャリア意識が涵養されるために必要な学びを実践的に展開します。また、インターンシップ関係の科目(「地域インターンシップ事前指導」「地域インターンシップ」「海外インターンシップ事前指導」「海外インターンシップ」「インターンシップ」)を設置し、実際に大学外の様々な社会において体験を積むことができるようにしています。

⑤「ともいき教養科目」

「ともいき社会」の実現を担う人材として、身につけるべき教養を複数の学問領域から学び、専門科目の知見を相対化することで事象の本質に複眼的に迫ることができるようになることを目的とした科目群です。自らが専攻する学問分野の知識は、幅広い教養やそこから生まれる洞察力と結びつくことで、現実の社会に生かされる「汎用的知力」となります。この科目群には、建学の理念に即した仏教の教え

を学ぶ科目をはじめ、宗教・思想、社会・文化、および自然科学にまたがる多様なテーマに関する科目が設置しており、学生各自の関心に応じて履修することができます。

⑥「コミュニケーション科目」

本領域のうち英語科目では、「英語コミュニケーション」と「英語リーディング」をバランスよく学ぶことを重視し、それぞれに個別の科目を置いています。とくに1・2年次では、習熟度別のクラス編成のもと、これを必修科目(I-IV)として学びます。これにより、個々の学生にマッチした指導を実現するとともに、全ての学生が基礎的・総合的な英語力を身につけることを目指します。3年次以降も、テーマ別の選択科目を提供し、特定の目的に応じた英語力の向上を図っています。

英語以外の第二外国語科目は、フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・韓国語・日本手話から自由に選択できます。各科目とも、入門から徐々に語学力や対話力をレベルアップさせていく科目編成をとっています(I~IV、日本手話のみI・II)。またいずれの科目でも、基礎文法や会話の習得を目指すと共に、諸外国の文化や「ろう者」に対する理解を深めるなど、共生社会の実現に関わるための知性を育めるように設計されています。

⑦「ともいき実践科目」

基盤教育の各科目群や専門科目において学んだ様々な知識、スキルに関連付けられた課題について、具体的な実践を通じて取り組むための科目群です。設置された各科目では、社会のさまざまな現場(あるいは、それを想定した学びの場)において計画の策定・実行・振り返りを行い、これらの知識・スキルを自己のうちにしっかり定着させ、KBU学士力へと結実させることを目標としています。「プロジェクト・地域ボランティア入門」は、これらの科目群全体についてのオリエンテーションを与える役割を果たします。

「プロジェクト科目」では、社会的課題にグループで取り組むことを重視します。課題の発見・設定に始まり、その解決方法の模索や協働作業による実践を経て、課題解決に至ることを目指します。さらに、「成果発表会」などを通じて、自らが得た成果を他者と共有するためのスキルを磨きます。こうした取り組みを通じて知識の「量」を増やすことに偏らず、それを「活用」して社会の発展に寄与する力を育成します。「プロジェクト科目II」は、「プロジェクト科目I」A・Bで修得したこうした力を、リーダーの立場やさらに高い知見で発揮できるように養成することを目的に設置しています。

「ボランティア」活動を中心とする科目(「地域ボランティア演習」A・B)では、他者への関わりを通じて自己を再発見し、また現代社会のキーワードである「自他の共生」について考えを深めることができます。演習科目においては、学校や社会福祉施設・団体などにおけるボランティア活動を行います。また講義科目でも、まず講義を通じてボランティアに関する基礎知識を身につけ、その上でボランティアの実践に移るなど、現場での実践を重視しています。こうして「知識」と「体験」の両面から、「ともいき」を社会の中で実現する力を育成します。

また、「セルフアセスメント演習」は、本学で学んだ多くの学修を自己の成長に位置づけることを目的とする科目として設置されています。

2 総合社会学部

総合社会学科の3つのポリシー

I. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

総合社会学科(以下、「本学科」という)では、社会科学を中心とする幅広い教育研究を通して、複雑で多様化する現代社会の諸問題を総合的に理解する力、またその解決に向けて探究・実践する力を身につけ、積極的に社会に働きかけて「ともいき社会」の実現に貢献できる人材(=「ともいき社会人」)を育成することを教育目標としています。本学科では、上記の教育目標を達成するために必要とされる所定の単位を修得し、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

1. 常に自己を省察し向上しようとする意欲と、複雑で多様化する現代社会の様々な問題や人間行動への強い関心を持ち、その解明や解決に向けて主体的かつ継続的に努力することができる。(自己対峙力＋社会への関心)
2. 社会科学を中心とする幅広い知識と技能を持ち、現代社会の諸問題を総合的視点から理解することができる。(汎用的知力／教養知)
3. 本学科に設置するコースの学びのうち、いずれかの分野に関する専門的知識と技能を持ち、それを現代社会の諸問題の発見や解決に役立てることができる。(汎用的知力／専門知)
4. 地域や組織の一員として、世代や文化の異なる他者に対しても共感的態度と対話力を持ち、協働することができる。(現場実践力)

II. 教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)

本学科では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、以下のような教育課程、教育方法、教育評価の方針に基づいて教育を行います。

(1)教育課程の編成

1. 複雑で多様化する現代社会の諸問題に対応するため、本学科に、経済・経営、メディア・社会心理、公共政策、観光・地域デザイン、国際文化という5つのコースを設置する。
2. 社会科学の基礎を幅広く学んだ後、所属するコースの履修モデルに沿って、専門性の高い科目を段階的に学べるよう、科目を配置する。
3. 所属するコースの履修モデル以外の科目も履修できる自由度を設ける。それにより、複数分野を組み合わせた学び方も可能となり、自分を取り組もうとする研究対象に多彩な視点からアプローチできる。
4. 問題発見や問題解決に向けた調査・分析力、またコミュニケーション力や情報発信・表現力などを養うため、少人数クラスによる演習・実習等の実践的な科目を設定する。
5. 上記の教育課程を通して身につけた種々の力を実際の社会で活用できるよう、資格取得を含めた就業力育成のための科目および履修プログラムを設置する。

(2)教育方法

1. ゼミ教育を重視し、1年次から4年次まで、すべてのセメスタでゼミ形式の授業を設定する。ゼミにおける教育指導の方針は以下①～③による。
 - ①1年次はコースごとにゼミを編成し、コースの学びに沿った基礎的なテキストを使用して、汎用的なラーニングスキルやリサーチスキルを涵養する。
 - ②2年次からは学生が自らの興味関心に応じて、多彩なテーマで開講されているゼミの中から選択できるようにする。その際、本学科の多様性や学際性を活かすため、ゼミ選択を所属コースにより制限することはないが、ミスマッチを防ぐため、あらかじめ各コースの学びと各ゼミの研究テーマとの関連度を示し、ゼミ選択における目安を提供する。

- ③ゼミ担当教員は、ゼミ学生の履修指導や就職支援など、担任として種々の面からサポートする。
2. ゼミ以外にも、少人数クラスによる演習・実習等の実践的な授業を多数用意し、現場体験によって得られる学びを重視する。
 3. 講義形式の授業においても、学生との意見交換、グループワーク、コミュニケーションペーパー、等々、できる限り双方向型の方法を取り入れ、学生の主体的かつ能動的な学びを引き出す工夫を行う。

(3)教育評価

学生レベルの評価は、各科目のシラバスに定める到達目標の達成度、本学科で定める学修ベンチマークの達成度、および卒業論文の成果等によって行う。その際、学期ごとの履修状況や学修成果を担任教員がチェックする体制を整え、各時期に応じた適切な指導を行う。

学科レベルの評価は、学科の全学生についての単位修得状況や学修ベンチマークの達成状況などを、継続的・統計的に把握することによって行う。

なお、教育評価に際しては、客観的な評価方法を確立するために効果的なツール(ループブックなど)を積極的に取り入れる。また、学生自身による学修成果のふりかえりや担任教員による学修成果の把握に活用できるツール(ラーニング・ポートフォリオなど)を積極的に取り入れる。

Ⅲ. 入学者選抜の方針(アドミッション・ポリシー)

総合社会学科では、絶えず変化する社会の諸問題を「発見」「分析」「考察」し、その解決策を「提言」「発信」する力を身に付けるとともに、専門知と応用力を社会の中で実践・活用することによって、「ともいき」の実現に貢献できる人材の育成を目的としています。本学科での学修においては、「自己と他者がともに幸せを感じられる社会」(ともいき)の実現に向けて、多様な生き方や価値観を多面的に見つめる思考力・想像力と、答えの用意されていない問いに満ちた世界へ力強く進んでいく意欲・姿勢を持つとともに、以下のような学習経験が求められます。

(1)高等学校卒業程度の教科学習の知識を正しく有していること。

1.本学科の学修では、多様な考え方や生き方を受け止める態度と、客観的に理解する能力を磨き上げていきます。「いま」「ここ」にある知識や常識だけで物事を理解するのではなく、自分とは異なる他者の考え方や価値観を受け止め、理解することが大切になります。

そのため、高等学校までの学習において、自分の見識を広げるために、どの教科においても広く知識を獲得しようとした経験を重視します。大学入試に使われやすい教科・科目に限らず、教科学習全般に取り組む自己学習能力が望まれます。

2.本学科の学修では、地理・歴史や政治・経済などの多様な視点から社会的事象を解釈するため、高等学校での「地理歴史」「公民」などの学習を通じて、社会に関する正確な基礎知識を有していることが望まれます。また、経済統計や心理統計の手法による調査データの整理・分析・考察を行うため、高等学校での「数学Ⅰ」「数学A」などの学習を通じた数学の基礎知識や、「情報」の学習を通じた基礎的な情報リテラシーが、学修の大きな助けになります。これらの教科に自信がない場合であっても、苦手意識を克服しようとする意欲や、入学後も学修を継続しようとする姿勢を評価します。

(2)「言語活動」での学習経験を活用できること。

本学科では、複雑で多様化する社会の諸問題の背景を整理し、自分なりの仮説を立て、それを検証するための調査を計画・実行し、その結果を分析・考察することによってそれらの本質を解きほぐし、解決策を提言、発信するプロセスを繰り返し学びます。その学びの基礎となるのは、複眼的・総合的な視点や、物事を多角的に思考する能力、自らの考えを効果的に表現し、他者に説得的に伝える力です。

そのため、高等学校での「言語活動」に関する学習成果を重視します。「言語活動」は「国語」や「英語(外国語)」などの教科が大きな役割を持ちますが、物事を考察したり、情報の収集や選択をしたり、感受性や表現を磨いたりする機会は様々な教科・科目を通じて設けられています。これらの学習機会に積極的に取り組み、その経験や成果を説明できることが求められます。

(3)「部活動」「委員会活動」および「総合的な学習の時間」等の探究型学習での経験を説明できること。

本学科の学修では、多様な生き方や価値観を持つ人々との学び合いを通じて、摩擦や葛藤を受け入れながら、新たな価値を創造していく主体性や協働性を重視します。例えば、国内外でのフィールドワークや、企業や自治体の課題解決にチームで取り組む実習などを通して、世代や背景の異なる他者との学び合いを体験します。

そのため、高校までの取り組みにおいて、多様な人たちと交流する機会を自ら持ち、ともに課題の解明・解決に向けて取り組んだ経験や、よりよい人間関係を見つけ出した体験を重視します。高等学校までの学習においては、「部活動」「委員会活動」や「総合的な学習の時間」等の探究型学習などを通じて、グループやチームの仲間と知恵や工夫を出し合いながら、課題の解明・解決に導いた経験やその成果物、あるいは、新たな課題を発見した経験を重視します。

総合社会学科のカリキュラム

●経済・経営コース

(1)カリキュラムのねらい

近年、市場経済のグローバル化がますます進展しています。とくにアジア諸国の経済発展に伴い、日本企業の中にも国内にとどまらず、海外にも進出する企業が増えてきています。その一方で、2011年3月に発生した東日本大震災をはじめとする自然災害を受けて、社会的な問題に対する人びとの関心が高まり、ボランティア活動を行う人びとやそういった問題をビジネスで解決しようとする企業も増加しています。

本コースでは、このような経済・社会現象および経済・社会問題について「経済」と「経営」という複眼的な視点で考える方法を修得します。そのために、まず経済と経営の原理・原則を学習します。そのうえで、経済学と経営学の考え方を用いて現実起こっているさまざまな現象を読み解くとともに、そういった問題について思考し、問題解決のための処方箋を導きます。とくに、社会的な問題をビジネスで解決するソーシャル・ビジネスの手法を身につけます。さらに、実社会に出てから必要となるソーシャル・スキル(主体性、積極性、柔軟性、分析力、問題解決能力、課題発見能力、コミュニケーション能力など)の修得や資格取得にも力を入れます。

(2)各年次の学習内容・到達目標

- 〈1年次〉 経済学、経営学の基礎的な知識を身につけている。
- 〈2年次〉 経済や経営の基本原則を理解し、現実の経済現象や経営上の問題を把握している。具体的には、グローバル化が進む市場経済の仕組みを理解しており、かつ、企業やNPOの経営に関する基本的な知識を身につけている。さらに、実習を通じて、これらの問題についての実際理解を深める。
- 〈3年次〉
 - ・世の中の事象を経済学的もしくは経営学的に思考する方法を身につけている。そのために理論と現実の往復作業を行うことが求められる。
 - ・具体的な経済・経営問題を定量的・客観的に分析することができる。つまり、金融、財政、貿易、組織、雇用、社会貢献などの現実問題についてデータを収集し、それを加工処理し、分析することができる。さらに、実習を通じて、これらの問題解決に向けた取り組みを行う。
- 〈4年次〉 3年間で学んだことを自身の研究テーマに応用し、研究を深め、その成果(卒業論文)を社会に発信することができる。

(3)コースコア科目

経済・経営コースでは、次の6科目を「コースコア科目」と位置づけ、コース所属学生には必ず履修するように勧めています。これらは、経済・経営コースが提供する様々な科目の中で、コースの学びの核となる科目であり、経済・経営分野について専門的に学んだと言えるための必要最小限の科目をピックアップしたものです。

	1春	1秋	2春	2秋
基礎	経済学概論	経営学概論		
基幹				日本経済論、経営戦略論
			ミクロ経済学、経営組織論のうち、どちらか1科目(注)	マクロ経済学、マーケティング基礎のうち、どちらか1科目(注)

(注)「ミクロ経済学」+「マクロ経済学」、「経営組織論」+「マーケティング基礎」の組み合わせで履修すること

(4)身につく力・将来の進路

市場経済で主体的に活躍する気概を持つ人材を育成します。とくに、ビジネス的な発想によって社会貢献を果たそうとする態度を身につけている人材を育成します。したがって、卒業後の進路は民間企業のみならず行政機関やNPOでの業務に従事することが期待されます。

●メディア・社会心理コース

(1)カリキュラムのねらい

現代社会のさまざまな問題は、いずれも人の心と社会のしくみが深く関係して生じています。また人の心と行動は、気づかぬうちにメディアの影響を受けています。メディアには、新聞・雑誌・テレビ等のマスメディアもあれば、スマートフォンのようなパーソナルメディアもあります。またインターネットを基盤とするデジタルメディアの普及により、現代のメディア状況は、従来のアナログメディアの時代に比べ、はるかに複雑で混沌とした様相を呈しています。このような現代社会に求められるのは、多様なメディアと私たちとの関係を理解し、メディアからの情報を正しく読み解く力、メディアを効果的に活用し情報を発信・表現する力、また、人の心とメディア・社会との相互作用について批判的に考察する力を持った人材でしょう。

メディア・社会心理コースのカリキュラムでは、まず「メディア」と「社会心理」という2つの学問領域の基礎をしっかり学び、社会と心の関係、および、メディアと社会・個人の関係についての基礎的知識や研究技法を身につけます。さらにそれらの知識や研究技法を使って、私たちが日々関わる身近なテーマ(例えば、組織や集団における人間関係、消費行動、流行現象、衣、食、住、映像や音楽、アート、宗教、犯罪など)について、より実践的に学び、複雑化する現代社会の諸問題について理解するための応用力を養っていきます。また、演習では、自分が関心を持ったテーマについてさらに研究を深め、最後にその集大成としての卒業論文を仕上げます。

(2)各年次の学習内容・到達目標

- 〈1年次〉 ・ 専門基礎科目を中心に、メディアと社会心理に関する学問的基礎を習得します。
- 〈2年次〉 ・ 専門基幹科目を中心に、メディアと社会心理に関する基幹的な科目を履修し、それと併行して専門展開科目の中から興味のある科目を履修することで、自分のその後の研究テーマにつながる領域についての知識や研究技法を習得します。
- 〈3年次〉 ・ 専門展開科目を中心に、メディアと社会心理に関する応用的な科目を履修することによって自分の研究テーマの方向性を定め、演習を通してその研究テーマを深めていきます。
- 〈4年次〉 ・ 演習を中心に、自分の研究テーマをさらに深め、4年間の学びの集大成としての卒業論文を完成させます。

(3)コースコア科目

メディア・社会心理コースでは、次の5科目を「コースコア科目」と位置づけ、コース所属学生には必ず履修するように勧めています。これらは、メディア・社会心理コースが提供する様々な科目の中で、コースの学びの核となる科目であり、メディア・社会心理分野について専門的に学んだと言えるための必要最小限の科目をピックアップしたものです。

	1春	1秋	2春
基礎	メディア研究概論 社会心理学概論		
基幹		メディアリテラシー コミュニケーションの心理	メディア研究法、社会心理学研究 法のうち、どちらか1科目

(4)身につく力・将来の進路

本コースでは、現代社会におけるメディアの特性や影響を理解し、メディアからの情報を批判的に読み解く力、多様なメディアを活用して情報を発信・表現するためのスキルや感性、そして現代社会の諸事象を社会心理的な視点から分析・考察する力などを身につけた人材を育成したいと考えています。これらの力は、将来、人や社会と関わるあらゆる分野で活かせるものと思われませんが、特に、出版・印刷や放送等のマスメディアに関する仕事、商品の開発や企画、マーケティング等に関する仕事などでの活躍が期待されます。また、心理学の学びを活かし、福祉、教育、司法・矯正等の領域において活躍することも可能です。

●公共政策コース

(1)カリキュラムのねらい

本コースで学ぶみなさんは、「社会にある問題を発見し、その解決策としての政策をデザインし、それを実行するための知識と技法、見識を磨くこと」が目標になります。ここに挙げた知識、技法、見識は、民間企業や公的な行政機関などのあらゆる組織において、また、家族や仲間、地域社会などでのさまざまな活動において近年求められる「ガバナンス」に関連する能力とも言えます。この能力をみなさんが着実に、かつ確実に身につけていけるように、本コースでは、①講義科目を「基礎」から「基幹」、そして「展開」というように配置し、専門的知識の蓄積を可能にしています。②講義で扱われた主題に則した演習科目をセメスターごとに配置し、講義で得られた知識を具体的な局面、場面において応用できる実践的な知へと高めていくことを可能にしています。また、「地域マネージャー」を養成するためのプログラムを提供し、地域が直面する課題を「政策」という視点から把握、探究し、社会に発信、提言できる素養を身につけることも可能にしています。

(2)各年次の学習内容・到達目標

- 〈1年次〉
 - ・高校までに学習した「社会」にかかわる基本的な知識を習得している。
 - ・大学での学びに必須とされる文献読解の仕方と書き言葉による表現の仕方の基礎を身につけている。
- 〈2年次〉
 - ・社会の仕組みの概要を法学、政治学、社会学の基本的な知識を用いて説明することができる。
 - ・自分に関わる問題領域を具体的に確定することができる。
- 〈3年次〉
 - ・卒業論文で考察していく問題を特定し、それに関する基本文献を収集、読解することができる。
 - ・自らが考察を進める問題の実行可能な解決策をデザインするために必要な知識と技法を身につけている。
- 〈4年次〉
 - ・1年次生から蓄積してきた知識と技法を総合して、社会にある問題に対する解決策をデザインし、それを卒業論文として表現、他者に発信することができる。

(3)コースコア科目

公共政策コースでは、次の6科目を「コースコア科目」と位置づけ、コース所属学生には必ず履修するように勧めています。これらは、公共政策コースが提供する様々な科目の中で、コースの学びの核となる科目であり、公共政策分野について専門的に学んだと言えるための必要最小限の科目をピックアップしたものです。

	1春	1秋	2春	2秋	3春
基礎	法学概論	社会学概論			
基幹	現代史	日本政治論	公共哲学		公共政策

(4)身につく力・将来の進路

本コースでは、社会にある問題を発見し、その解決策としての政策をデザインし、それを実行することができる、すなわちPDCAサイクルで行動する人間を養成します。具体的には、専門的知識を基礎としつつ、①戦略的思考ができる人間、②自分に対しても、そして家族、仲間、職場などの組織に対しても責任を担う人間、③労を惜しまない人間、④コンプライアンスを尊重する人間、⑤公と私の区別ができる人間、⑥相互に尊重し合う人間関係を築くことができる人間、⑦反応の良い人間、です。そしてみなさんには、卒業後、公務員、民間企業、非営利組織、大学院進学といった領域で、企画提案型営業職、企画職、総務職、研究職などの仕事に従事することが期待されています。

●国際文化コース

(1)カリキュラムのねらい

私たちは今、グローバルゼーションというヒト、モノ、情報が国境をこえ地球規模で行き交う世界に生きています。そこで求められているのは、自分の文化についての知識をしっかりとちながら、異文化を尊重し理解し、さまざまな人とコミュニケーションができる能力をもった人材です。

国際文化や異文化理解というと、国や地域を単位とした文化交流や英語によるコミュニケーションを連想する人が多いかもしれませんが。しかし、一つの国のなかにも外国にルーツをもつ人やさまざまな民族の人が暮らしていますし、同じ民族文化をもった人が国境を越えて広がっていたりもします。また、信仰や宗教といった精神文化や、音楽、ファッション、アニメといった芸術文化は、国境を越えて広がっています。私たちは、さまざまな側面においてインターナショナルな多文化世界のなかにも暮らしているのです。とくに現在、急速に多文化化が進む日本社会では、外国語を学ぶことも大事ですが、日本文化や日本語を外国の人にきちんと伝えることができる知識をもつことも大切です。少子化による労働力不足に対応し、外国人移民導入に政策的な舵が切られ始めているのです。

国際文化コースではこうした視点に立って、文化をキーワードに日本やのさまざまな事象について学び、現代社会が抱える諸問題を理解するとともに、フィールドワークによって現場で考え、異なる文化間の懸け橋となることができる人材の育成を目指しています。

(2)各年次の学習内容・到達目標

- 〈1年次〉 現代世界を学ぶための土台となる基礎的な教養を身に付け、フィールド調査の基本的な技法を学んで現場に立つ体験をすることで、国際文化コースの専門的な学びに取り組むために必要な知識を習得します。
- 〈2年次〉 グローバリゼーションや日本をはじめとする世界各地の文化や社会、歴史、宗教について深く理解し、現代世界の諸問題について学び、それを通して自分の日常生活を広い視点から捉える力を身につけます。また、国内外での実習やプロジェクト科目などを通してフィールドで実践的に学び、コミュニケーション力をつけていきます。
- 〈3年次〉 セミでの学習を中心に、文献研究やフィールドワークによって問題を発見し、資料を収集・分析して課題解決に向けた企画の立案や提案をする力、プレゼンテーションの力をつけるとともに、インターンシップなどを通して、卒業後の進路を見据えた具体的なキャリア構築にむけた学習や活動に取り組みます。
- 〈4年次〉 大学4年間の学びの集大成として卒業論文を仕上げ、大学で学んだ知識と、他者を理解し、さまざまな人とコミュニケーションできる力を社会で活かせるように、キャリア構築を進めていきます。

(3)コースコア科目

国際文化コースでは、次の6科目を「コースコア科目」と位置づけ、コース所属学生には必ず履修するように勧めています。これらは、国際文化コースが提供する様々な科目の中で、コースの学びの核となる科目であり、国際文化分野について専門的に学んだと言えるための必要最小限の科目をピックアップしたものです。

	1春	1秋	2春	2秋
基礎	文化人類学	地域研究概論		
基幹		フィールド調査法	多文化共生論	比較宗教論
展開			中国地域研究、韓国地域研究、南アジア・東南アジア地域研究、中東・アフリカ地域研究のうち、どれか1科目	

(4)身につく力・将来の進路

日本や世界の文化や社会について豊かな学識をもち、高い異文化理解能力と豊かなコミュニケーション能力をもって現場で実践的に活躍できる力を備えた人を育てていきます。国際文化コースの履修科目と、日本文化・日本語教師養成プログラム、地域公共政策士(文化コーディネーター)、博物館学芸員資格、社会調査士資格などの資格科目の履修を組み合わせることによって、さらに実践を積み充実した学習をすることが望まれます。卒業後は、いよいよ国際化する一般企業はもちろん、文化政策や多文化共生に関わる行政職やNPO・NGO、国内外での日本語教師、国際協力事業やサービス業、グローバルな企業での活躍が期待されています。

●観光・地域デザインコース

(1)カリキュラムのねらい

観光というと、各地の名所を観て回ったり、名物を楽しんだりすること、あるいは、修学旅行などのような団体旅行をイメージする人が多いかもしれませんが。また地域活性化というと、人々の集うイベントや施設を計画したり、土産物を開発したりすることとと思っている人もいるでしょう。

もちろん、このようなことも、観光・地域デザインには必要です。しかし現在、観光・地域デザインの分野で求められているのは、単にその地域の歴史的な名所を案内するツアーを提供したり、大型の施設を建築するというような表面的な手法だけではありません。現代人の多様なニーズに応え、社会の急激な変化にも対応するためには、地域の様々な新たな資源を発見し、その魅力を広く体験してもらえようプロデュースすること、あるいはそれらの魅力を生かして、地域課題を解決し、地域の未来をデザインする必要があります。そこでは柔軟なものの見方を持ち、人々の出会いやコミュニケーションを創出する力が大切です。

本コースでは、文化人類学と観光学、建築学、都市デザイン学などの知見と方法を生かし、地域や社会をフィールドとして実体験を通じて学びます。また日本を含め世界各地の先進的な取組や事例についても学ぶことができます。さらに、それらの学びを生かして、実際の企画を立案実施できる実務能力の養成にも力点を置きます。

(2)各年次の学習内容と到達目標

- 〈1年次〉 基礎的な知識を習得し、問題意識を育てます。観光・地域デザインの基本的な課題について理解し、観光・地域デザインに取り組む上で必要な知識を身につけることを目指します。
- 〈2年次〉 フィールドに出て、自ら課題を発見し、アイデアを持つ力を磨きます。現実の世界や地域社会で起きている様々な事象から、問題を発見でき、それらの問題を、観光・まちづくりの知見に基づき考察・分析できるようになります。現実の世界や地域社会で起きている様々な事象に、関心を持つことができる力を養います。さらに、観光関係を主体として学ぶ学生は、旅行業取扱管理者試験の受験を目指した実務的学習にも取り組みます。
- 〈3年次〉 ゼミでの学習を深め、インターンシップ、資格試験などに挑戦します。自分の情報やアイデアを、議論などを通じて他者と共有でき、地域の魅力を発見し、課題分析に基づいた提案・企画をおこなうことができる力をつけていきます。現実社会のニーズに対応して、自ら周囲の人々との関係性を構築することができるようになることをめざします。行政や地域団体、また、ホテル・旅行業などでのインターンシップやプロジェクトなどにも参加します。
- 〈4年次〉 これまでの学習成果を元に、より実社会に出るまでに必要な知識と体験を重ねキャリア開拓に努めます。

(3)コースコア科目

観光・地域デザインコースでは、次の6科目を「コースコア科目」と位置づけ、コース所属学生には必ず履修するように勧めています。これらは、観光・地域デザインコースが提供する様々な科目の中で、コースの学びの核となる科目であり、観光・地域デザイン分野について専門的に学んだと言えるための必要最小限の科目をピックアップしたものです。

	1春	1秋	2春	2秋
基礎	観光学概論	地域デザイン概論		
基幹			観光ビジネス論	観光文化論 コミュニティデザイン論 地域調査法

(4)身につく力、将来の進路

観光・地域デザインの基礎的な知識を持ち、課題発見をし、実社会で生かせる実務的、実践的な能力も兼ね備えた人材を育成します。インターンシップなどのキャリア教育や資格取得などにも力を入れるので、旅行、ホテル・サービス業はもちろんのこと、公務員をはじめ、コミュニケーション能力を生かして、一般企業への就職が可能になることが期待されます。

2022年度カリキュラム表 総合社会学部総合社会学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	必要単位	卒業の要件
KBUアイデンティティ科目	仏教入門	2	必	講	(仲宗根充修) ○林雅清	1～	春	履修クラス指定 ※2	2	必修4単位
	大学入門	1	必	講	林雅清 ○平岡聡	1～	春	全8回授業 履修クラス指定 ※2	1	
	地域入門	1	必	講	(石田浩基) ○香川克 清水亜紀子 森正美	1～	秋	全8回授業 履修クラス指定 ※2	1	
学習スキル科目	初年次演習	2	必	演	浅井暢子 鵜飼正樹 遠藤央 大西貴之 片山明久 河本直樹 金基淑 黒宮一太 小林大祐 小林康正 ○澤達大 杉本星子 多湖雅博 豊田宏樹 馬場雄司 潘宏立 三浦潔 K.ヤニ 山本真一	1～	春	履修クラス指定 ※2	4	必修4単位以上
	書く技法	2	必	講	(朝田佳尚) (佐藤量) (田島知之) ○平岡聡 (藤井友紀) (山口周子)	1～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは自分で登録		
	情報機器演習	2	選	演	(浅里京子) (岡本久仁子) (枝富喜夫)	1～	春/秋	人数制限あり ※1		
	映像制作活用演習	2	選	演	(寺島亨)	1～	秋	人数制限あり ※1		
キャリアデザイン科目	シチズンシップ論	2	選	講	岡本浄実 ○小林康正	1～	春/秋			4単位以上
	人権論	2	選	講	(小泉友則)	1～	秋			
	現代とICT	2	選	講	(枝富喜夫)	1～	春			
	健康科学	2	選	講	岡本浄実 (久米雅)	1～	春/秋			
	生涯スポーツ	2	選	演	(稲井勇仁) ○岡本浄実 (久米雅) (辻哲夫) (三上純)	1～	春/秋	人数制限あり ※1	4	
	体育実技	1	選	実技	(稲井勇仁) ○岡本浄実 (高山優子)	1～	春/秋	人数制限あり ※1		
キャリアと自己形成A	2	選	講	中西勝彦 ○松田真理子 ○三浦潔	1～	秋	履修クラス指定		2単位以上	

総合社会学部総合社会学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	必要単位	卒業の要件
ワークデザイン科目	キャリアと自己形成B	2	選	講	中西勝彦	3～	春		2	
	キャリアと自己形成C	2	選	演	中西勝彦	4	秋	2023年度開講		
	地域インターンシップ事前指導	1	選	演	香川克 ○片山明久 黒宮一太 山本真一	2～	春	人数制限あり ※2		
	地域インターンシップ	1	選	実	香川克 ○片山明久 黒宮一太 山本真一	2～	秋	人数制限あり ※2		
	海外インターンシップ事前指導	1	選	演	潘宏立	2～	春	人数制限あり ※2		
	海外インターンシップ インターンシップ	1 2	選 選	実 実	潘宏立 単位認定委員会	2～ 2～	秋 秋	人数制限あり ※2 人数制限あり ※2 ※3		
ともいき教養科目	仏教学	2	選	講	平岡聡	1～	秋		6	6単位以上
	浄土学	2	選	講	林雅清	2～	秋			
	宗教学	2	選	講	(朝香知己)	1～	秋			
	哲学	2	選	講	(笹岡健太)	1～	春			
	倫理学	2	選	講	(笹岡健太)	1～	秋			
	文学論	2	選	講	(千古利恵子)	1～	春			
	歴史学	2	選	講	(澤田裕子)	1～	春			
	芸術論	2	選	講	(今村美邦子)	1～	春			
	民俗学	2	選	講	小林康正	1～	秋			
	日本国憲法	2	選	講	大西貴之	1～	春			
	宇宙の科学	2	選	講	(磯部洋明)	2～	秋			
	生命の科学	2	選	講	(大西雄二)	2～	秋			
	環境論	2	選	講	(阪元勇輝)	1～	秋			
	社会科学論	2	選	講	鵜飼正樹	1～	秋			
	統計学	2	選	講	(西岡暁廣)	1～	春			
言語と社会	2	選	講	K.ヤニ	1～	春				
社会福祉	2	選	講	(森合真一)	2～	春				
	英語コミュニケーションⅠ	1	必	演	(工藤敦子) (菊川和彦) 陸君 (J.アカザワ) (C.ウィリス) (S.キャンベル) (S.トマシェフスキ) (P.トゥーファー) (J.ホーヴィー) ○L.S.リビー	1～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選 ※1	必修8単位以上	
	英語コミュニケーションⅡ	1	必	演	(工藤敦子) (菊川和彦) 陸君 (J.アカザワ) (C.ウィリス) (S.キャンベル) (S.トマシェフスキ) (P.トゥーファー) (J.ホーヴィー) ○L.S.リビー	1～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選 ※1		
	英語コミュニケーションⅢ	1	必	演	○瀧澤正己 中窪靖 (増田純一) (C.ウィリス) (J.コーエン) (P.トゥーファー) (J.ホーヴィー) L.S.リビー	2～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選 ※1		

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	必要単位	卒業の要件
基盤教育科目 コミュニケーション科目	英語コミュニケーションⅣ	1	必	演	○瀧澤正己 中窪靖 (増田純一) (C.ウィリス) (J.コーエン) (P.トゥーファー) (J.ホーヴィー) L.S.リビー	2～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選 ※1	8	
	英語リーディングⅠ	1	必	演	(柏原陽子) (菊川和彦) (工藤敦子) (杉原由里子) 瀧澤正己 ○中窪靖 (林峰子) (原田靖也) (藤原和彦) (森川康子)	1～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選 ※1		
	英語リーディングⅡ	1	必	演	(柏原陽子) (菊川和彦) (工藤敦子) (杉原由里子) 瀧澤正己 ○中窪靖 (林峰子) (原田靖也) (藤原和彦) (森川康子)	1～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選 ※1		
	英語リーディングⅢ	1	必	演	(有本好一郎) (菊川和彦) (杉原由里子) 中窪靖 (増田純一) (宮本晴子) (山口和夫) ○陸君 (J.ホーヴィー)	2～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選 ※1		
	英語リーディングⅣ	1	必	演	(有本好一郎) (菊川和彦) (杉原由里子) 中窪靖 (増田純一) (宮本晴子) (山口和夫) ○陸君 (J.ホーヴィー)	2～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選 ※1		
	英語コミュニケーションⅤ	1	選	演	L.S.リビー	3～	春	人数制限あり ※1		
	英語コミュニケーションⅥ	1	選	演	瀧澤正己 陸君	3～	秋	人数制限あり ※1		
	英語リーディングⅤ	1	選	演	中窪靖 (山口和夫)	3～	春	人数制限あり ※1		
	英語リーディングⅥ	1	選	演	中窪靖	3～	秋	人数制限あり ※1		
	フランス語Ⅰ	1	選	演	(本多雄一郎)	1～	春	人数制限あり ※1		
フランス語Ⅱ	1	選	演	(本多雄一郎)	1～	秋	人数制限あり ※1			

総合社会学部総合社会学科 2020年度入学生対象

授業科目等	単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	必要単位	卒業の要件
フランス語Ⅲ	1	選	演	(本多雄一郎)	2～	春	人数制限あり ※1	2	2単位以上
フランス語Ⅳ	1	選	演	(本多雄一郎)	2～	秋	人数制限あり ※1		
ドイツ語Ⅰ	1	選	演	(寺澤大奈)	1～	春	人数制限あり ※1		
ドイツ語Ⅱ	1	選	演	(寺澤大奈)	1～	秋	人数制限あり ※1		
ドイツ語Ⅲ	1	選	演	(寺澤大奈)	2～	春	人数制限あり ※1		
ドイツ語Ⅳ	1	選	演	(寺澤大奈)	2～	秋	人数制限あり ※1		
スペイン語Ⅰ	1	選	演	(大久保英子)	1～	春	人数制限あり ※1		
スペイン語Ⅱ	1	選	演	(大久保英子)	1～	秋	人数制限あり ※1		
スペイン語Ⅲ	1	選	演	(北條ゆかり)	2～	春	人数制限あり ※1		
スペイン語Ⅳ	1	選	演	(北條ゆかり)	2～	秋	人数制限あり ※1		
中国語Ⅰ	1	選	演	○林雅清 潘宏立 (劉建)	1～	春/秋	人数制限あり ※1		
中国語Ⅱ	1	選	演	○林雅清 潘宏立 (劉建)	1～	秋	人数制限あり ※1		
中国語Ⅲ	1	選	演	林雅清	2～	春	人数制限あり ※1		
中国語Ⅳ	1	選	演	林雅清	2～	秋	人数制限あり ※1		
韓国語Ⅰ	1	選	演	(平井清実) ○安田ひろみ	1～	春	人数制限あり ※1		
韓国語Ⅱ	1	選	演	(平井清実) ○安田ひろみ	1～	秋	人数制限あり ※1		
韓国語Ⅲ	1	選	演	(平井清実)	2～	春	人数制限あり ※1		
韓国語Ⅳ	1	選	演	(平井清実)	2～	秋	人数制限あり ※1		
日本手話Ⅰ	1	選	演	(物井明子)	1～	春	人数制限あり ※1		
日本手話Ⅱ	1	選	演	(物井明子)	1～	秋	人数制限あり ※1		
プロジェクト・地域ボランティア入門	1	選	演	中西勝彦	1～	秋			
地域ボランティア演習A	2	選	演	大西巧 ○小林康正 島田香 ○平岡聡	2～	春/秋	人数制限あり ※1		
地域ボランティア演習B	1	選	演	小林康正 ○平岡聡	2～	春/秋	人数制限あり ※1		
プロジェクト科目IA	2	選	演	(稲井勇仁) 岡本浄実 (岸岡洋介) 小林大祐 小林康正 澤達大 多湖雅博 (谷家優子) 中西勝彦 (中山良子) 安田ひろみ	2～	春	人数制限あり ※1		
プロジェクト科目IB	2	選	演	(稲井勇仁) 岡本浄実 黒宮一太 小林大祐 中西勝彦 (中山良子) 林雅清 松田美枝 安田ひろみ	2～	秋	人数制限あり ※1		
プロジェクト科目II	2	選	演	岡本浄実 小林康正 澤達大 (谷家優子) 中西勝彦	3～	春/秋	人数制限あり ※1		
セルフアセスメント演習	1	選	演	平岡聡 未定	4～	春/秋	2023年度開講		

ともいき実践科目

総合社会学部総合社会学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	卒業の要件		
専門科目	専門基礎科目	総合社会学入門	2	必	講	鶴飼正樹 ○河本直樹	1～	春	オムニバス	必修2単位を含めて10単位以上	
		メディア研究概論	2	選	講	吹上裕樹	1～	春			
		社会心理学概論	2	選	講	(鈴木文子)	1～	春			
		経済学概論	2	選	講	筒井義郎	1～	春			
		経営学概論	2	選	講	多湖雅博	1～	秋			
		法学概論	2	選	講	大西貴之	1～	春			
		社会学概論	2	選	講	山崎晶	1～	秋			
		文化人類学	2	選	講	安田ひろみ	1～	春			
		地域研究概論	2	選	講	杉本星子	1～	秋	「国際地域研究概論」と読替		
		観光学概論	2	選	講	片山明久	1～	春			
地域デザイン概論	2	選	講	森正美	1～	秋					
専門基礎科目	経済・経営分野	データ分析入門	2	選	講	豊田宏樹	1～	秋		12単位以上	
		日本経済論	2	選	講	K.ヤニ	2～	秋			
		ミクロ経済学	2	選	講	山本真一	2～	春			
		マクロ経済学	2	選	講	K.ヤニ	2～	秋			
		簿記論	2	選	講	(伏見康子)	2～	春			
		経営組織論	2	選	講	平塚力	2～	春			
		経営戦略論	2	選	講	多湖雅博	2～	秋			
		マーケティング基礎	2	選	講	(羽田祥子)	2～	秋			
		メディア・社会心理分野	メディアリテラシー	2	選	講	山崎晶	1～	秋		
			メディア研究法	2	選	講	(彭永成)	2～	春		
	マスメディア論		2	選	講	(柳澤伸司)	2～	春			
	メディア史		2	選	講	小林康正	2～	秋			
	文化社会学		2	選	講	鶴飼正樹	2～	秋			
	コミュニケーションの心理		2	選	講	浅井暢子	1～	秋			
	社会心理学研究法		2	選	講	浅井暢子	2～	春			
	認知科学		2	選	講	(西山慧)	2～	春			
	組織心理学		2	選	講	未定	2～	秋			
	人間行動学		2	選	講	(劉礫岩)	2～	秋			
	公共政策分野	現代史	2	選	講	遠藤央	1～	春			
		日本政治論	2	選	講	黒宮一太	1～	秋			
		政策過程論	2	選	講	(山谷清志)	2～	秋			
		民法Ⅰ	2	選	講	大西貴之	1～	秋			
		民法Ⅱ	2	選	講	(栗山修)	2～	春			
		国際関係論	2	選	講	(佐々木太郎)	2～	春			
		行政学	2	選	講	(山谷清志)	2～	春			
		公共哲学	2	選	講	(下村智典)	2～	春			
		公共政策	2	選	講	山本真一	3～	春			
		国際文化分野	フィールド調査法	2	選	講	金基淑	1～	秋		
	多文化共生論		2	選	講	杉本星子	2～	春			
	グローバル化論		2	選	講	遠藤央	2～	秋			
	国際協力論		2	選	講	(石川輝)	2～	秋	2023年度より非開講		
	比較宗教論		2	選	講	安田ひろみ	2～	秋			
アジア地域論	2		選	講	潘宏立	2～	春				
欧米地域論	2		選	講	(河西瑛里子)	2～	秋				
日本社会論	2		選	講	(濱千代早由美)	2～	春				
日本史総論	2		選	講	(松波宏隆)	2～	春				
観光・地域デザイン分野	観光地理		2	選	講	(村田有司)	1～	春			
	観光文化論	2	選	講	(中島智)	2～	秋				
	観光ビジネス論	2	選	講	片山明久	2～	春				
	観光メディア論	2	選	講	(小畑博正)	2～	春				
	現代都市計画論	2	選	講	小林大祐	2～	春				
	コミュニティデザイン論	2	選	講	小林大祐	2～	秋				
	地域デザイン実践論	2	選	講	(滋野浩毅)	2～	秋				
	地域開発論	2	選	講	(井口寛)	2～	春				
	地域調査法	2	選	講	小林大祐	2～	秋				
	公共人類学	2	選	講	(早川公)	2～	秋				

総合社会学部総合社会学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	卒業の要件
専門展開科目	経済・経営分野	金融論Ⅰ	2	選	講	豊田宏樹	2～	秋	20単位以上
		金融論Ⅱ	2	選	講	豊田宏樹	3～	春	
		経済統計学	2	選	講	K.ヤニ	2～	秋	
		応用ミクロ経済学	2	選	講	筒井義郎	2～	秋	
		公共経済学	2	選	講	山本真一	2～	秋	
		グローバル経済論	2	選	講	(石川輝)	3～	春	
		環境経済学	2	選	講	未定	3～	秋	
		労働経済学	2	選	講	K.ヤニ	3～	春	
		会計論	2	選	講	(伏見康子)	2～	秋	
		企業論	2	選	講	三浦潔	2～	秋	
		マーケティング論	2	選	講	多湖雅博	3～	春	
		NPO論	2	選	講	平塚力	3～	春	
		人材マネジメント論	2	選	講	多湖雅博	3～	春	
		ソーシャル・ビジネス論	2	選	講	平塚力	3～	秋	
	メディア・社会心理分野	商取引と法	2	選	講	(栗山修)	2～	春	2024年度より非開講
		会社法	2	選	講	(栗山修)	2～	秋	2024年度より非開講
		証券取引と法	2	選	講	(栗山修)	2～	秋	2024年度より非開講
		色彩論	2	選	講	河本直樹	2～	春	
		アートと社会	2	選	講	吹上裕樹	2～	春	
		ネットワーク論	2	選	講	(屋萱素子)	2～	春	
		映像メディア論	2	選	講	(唄邦弘)	2～	秋	
		アパレル流行論	2	選	講	河本直樹	2～	秋	
		消費行動の心理	2	選	講	浅井暢子	2～	秋	
		犯罪の心理学	2	選	講	(中川知宏)	2～	秋	集中講義
		食とコミュニケーション	2	選	講	奥野克己	2～	春	2024年度より非開講
		ポピュラー文化論	2	選	講	鶴飼正樹	3～	春	
		文化心理学	2	選	講	(谷口友梨)	3～	春	集中講義
公共政策分野	身体の文化論	2	選	講	(古川岳志)	3～	秋		
	紛争と解決	2	選	講	(中村友一)	2～	春		
	国際法総論	2	選	講	(上地 瑠美子)	2～	春		
	民法Ⅲ	2	選	講	(松久和彦)	2～	秋		
	民法Ⅳ	2	選	講	(松久和彦)	3～	春		
	行政法	2	選	講	(若狭愛子)	2～	秋		
	政治学総論	2	選	講	(中島啓勝)	2～	秋		
	デモクラシー論	2	選	講	(中島啓勝)	2～	秋		
	比較社会論	2	選	講	(朝香知己)	2～	秋		
	比較政治論	2	選	講	(中島啓勝)	2～	春		
	社会保障論	2	選	講	(齊藤拓)	2～	春		
	家族・ジェンダー論	2	選	講	遠藤央	2～	秋		
	地方自治と政策	2	選	講	(安藤加菜子)	2～	秋		
国際文化分野	日本地域研究	2	選	講	小林康正	2～	春	2025年度より非開講	
	南アジア・東南アジア地域研究	2	選	講	金基淑 ○馬場雄司	2～	春	2025年度より非開講	
	韓国地域研究	2	選	講	安田ひろみ	2～	春		
	中東・アフリカ地域研究	2	選	講	奥野克己	2～	秋	2024年度より非開講	
	中国地域研究	2	選	講	潘宏立	2～	秋		
	ヨーロッパ地域研究	2	選	講	(河西瑛里子)	2～	秋	2025年度より非開講	
	アメリカ地域研究	2	選	講	(山本晃輔)	2～	秋	2025年度より非開講	
	外国史総論	2	選	講	(松波宏隆)	1～	秋		
	国際教育論	2	選	講	(杉本均)	2～	春		
	世界の食と農	2	選	講	(山本奈美)	2～	秋	2023年度より非開講	
国際コミュニケーション論	2	選	講	(佐々木太郎)	2～	秋			
考古学	2	選	講	(中島正)	2～	春	2023年度より非開講		

総合社会学部総合社会学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	卒業の要件
観光・地域デザイン分野	現代観光論	2	選	講	片山明久	2～	秋		
	観光政策論	2	選	講	(堀内史朗)	2～	春		
	観光デザイン論	2	選	講	(宮本茂樹)	2～	春		
	観光コミュニケーション論	2	選	講	(中島智)	2～	秋		
	都市と観光の社会学	2	選	講	(松岡慧祐)	2～	春		
	サービス・ホスピタリティ論	2	選	講	(今井真貴子)	2～	秋		
	世界遺産論	2	選	講	小林大祐	2～	秋		
	地域資源マネジメント論	2	選	講	(宮本茂樹)	2～	春		
	スポーツと地域	2	選	講	(中嶋大輔)	2～	秋		
	情報化社会と地域デザイン	2	選	講	杉本星子	2～	春	2023年度より非開講	
	福祉と地域デザイン	2	選	講	馬場雄司	2～	秋		
	京都の暮らしと地域デザイン	2	選	講	(大島祥子)	2～	春		
	音楽と癒し	2	選	講	馬場雄司	3～	春		
	京都ツーリズム論	2	選	講	(宮本茂樹)	2～	秋		
	専門関連分野	地誌学	2	選	講	澤達大	1～	春	
系統地理学		2	選	講	澤達大	1～	秋		
外国語専門書講読Ⅰ		2	選	講	遠藤央	2～	春	2023年度より非開講	
外国語専門書講読Ⅱ		2	選	講	平塚力	2～	秋	2023年度より非開講	
観光外国語	2	選	講	(沢田美保子)	2～	春			
基幹演習科目	総合社会学基礎演習	2	必	演	遠藤 央 大西 貴之 奥野克己 金基淑 黒宮 一太 小林大祐 小林康正 澤達大 多湖雅博 豊田宏樹 馬場雄司 潘宏立 平塚力 吹上裕樹 三浦潔 安田ひろみ 山崎晶 山本真一	1～	秋	履修クラス指定	16単位
	総合社会学演習Ⅰ	2	必	演	浅井暢子 鶴飼正樹 大西貴之 奥野克己 片山明久 河本直樹 金基淑 黒宮一太 小林大祐 小林康正 杉本星子 多湖雅博 豊田宏樹 馬場雄司 潘宏立 平塚力 吹上裕樹 三浦潔 安田ひろみ K.ヤニ 山本真一	2～	春	履修クラス指定 ※2	

総合社会学部総合社会学科 2020年度入学生対象

授業科目等	単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	卒業の要件
総合社会学演習Ⅱ	2	必	演	浅井暢子 鶴飼正樹 遠藤央 大西貴之 奥野克己 片山明久 河本直樹 金基淑 黒宮一太 小林大祐 小林康正 杉本星子 多湖雅博 豊田宏樹 馬場雄司 潘宏立 平塚力 吹上裕樹 三浦潔 安田ひろみ K.ヤニ 山崎晶 山本真一	2～	秋	履修クラス指定 ※2	
総合社会学演習Ⅲ	2	必	演	浅井暢子 鶴飼正樹 遠藤央 大西貴之 奥野克己 片山明久 河本直樹 金基淑 黒宮一太 小林大祐 小林康正 杉本星子 多湖雅博 (谷口友梨) 筒井義郎 豊田宏樹 馬場雄司 潘宏立 平塚力 吹上裕樹 三浦潔 森正美 安田ひろみ K.ヤニ (木島由晶) 山本真一	3～	春	履修クラス指定 ※2	

総合社会学部総合社会学科 2020年度入学生対象

授業科目等	単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	卒業の要件
総合社会学演習Ⅳ	2	必	演	浅井暢子 鶴飼正樹 遠藤央 大西貴之 奥野克己 片山明久 河本直樹 金基淑 黒宮一太 小林大祐 小林康正 杉本星子 多湖雅博 筒井義郎 豊田宏樹 馬場雄司 潘宏立 平塚力 吹上裕樹 三浦潔 森正美 安田ひろみ K.ヤニ 山崎晶 山本真一	3～	秋	履修クラス指定 ※2	
総合社会学演習Ⅴ	2	必	演	浅井暢子 鶴飼正樹 遠藤央 大西貴之 奥野克己 片山明久 河本直樹 金基淑 黒宮一太 小林大祐 小林康正 杉本星子 多湖雅博 (谷口友梨) 筒井義郎 豊田宏樹 馬場雄司 潘宏立 平塚力 吹上裕樹 三浦潔 森正美 安田ひろみ K.ヤニ (木島由晶) 山本真一	4	春	履修クラス指定 ※2	

総合社会学部総合社会学科 2020年度入学生対象

授業科目等	単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	卒業の要件
総合社会学演習VI	2	必	演	浅井暢子 鷗飼正樹 遠藤央 大西貴之 奥野克己 片山明久 河本直樹 金基淑 黒宮一太 小林大祐 小林康正 杉本星子 多湖雅博 (谷口友梨) 筒井義郎 豊田宏樹 馬場雄司 潘宏立 平塚力 吹上裕樹 三浦潔 森正美 安田ひろみ K.ヤニ 山崎晶 山本真一	4	秋	履修クラス指定 ※2	
卒業論文	2	必	演	浅井暢子 鷗飼正樹 遠藤央 大西貴之 奥野克己 片山明久 河本直樹 金基淑 黒宮一太 小林大祐 小林康正 杉本星子 多湖雅博 (谷口友梨) 筒井義郎 豊田宏樹 馬場雄司 潘宏立 平塚力 吹上裕樹 三浦潔 森正美 安田ひろみ K.ヤニ 山崎晶 山本真一	4	春/秋	履修クラス指定 ※2 履修登録不要	

総合社会学部総合社会学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	卒業の要件
実習・表現・発信科目	総合社会学実習AⅠ	2	選	実	鷗飼正樹 小林大祐 (西岡暁廣) 潘宏立	2～	春	人数制限あり ※2	2単位以上
	総合社会学実習AⅡ	2	選	実	鷗飼正樹 小林大祐 (西岡暁廣) 潘宏立	2～	秋	人数制限あり ※2	
	総合社会学実習B	2	選	実	片山明久 澤達大	2～ 2～	秋 春	人数制限あり ※2	
	総合社会学実習C	2	選	実	多湖雅博	2～	秋	人数制限あり ※2	
	総合社会学実習D	2	選	実	○浅井暢子 (亀井隆幸)	2～	秋	人数制限あり ※2	
	総合社会学実習E	2	選	実	馬場雄司	2～	秋	人数制限あり ※2	
	総合社会学実習F	2	選	実	大西貴之	2～	秋	人数制限あり ※2	
	表現・発信系演習1	2	選	演	(山本晃輔)	1～	秋	人数制限あり ※1	
	表現・発信系演習2	2	選	演	中西勝彦	1～	秋	人数制限あり ※1	
	表現・発信系演習3	2	選	演	(松本篤)	2～	春	人数制限あり ※1	
	表現・発信系演習4	2	選	演	(鮎子田恵人)	2～	春	人数制限あり ※1	
	表現・発信系演習5	2	選	演	吹上裕樹	2～	秋	人数制限あり ※1	
表現・発信系演習6	2	選	演	澤達大	2～	秋	人数制限あり ※1		
キャリア構築科目	総合社会学とキャリア構築	1	必	講	浅井暢子 ○黒宮一太	1～	春	全8回授業 履修クラス指定 ※2	必修1単位を含め2単位以上
	社会に活かす大学での学び	1	選	講	○奥野克己 澤達大	3～	春	全8回授業	
	社会人の教養A	2	選	講	河本直樹	2～	秋	2025年度より非開講	
	社会人の教養B	2	選	講	澤達大 未定	3～	春	2024年度より非開講	
	エクスターンシップ実習	2	選	実	黒宮一太 中西勝彦 三浦潔 山本真一	3～	春	人数制限あり ※2	
	ソーシャルスキル演習	1	選	演	—	3～	秋	非開講	
キャリア関連科目	実用簿記論Ⅰ	2	選	講	(伏見康子)	2～	春		
	実用簿記論Ⅱ	2	選	講	(伏見康子)	2～	秋		
	秘書実務論	2	選	講	(串田敏美)	2～	秋		
	旅行業論Ⅰ	2	選	講	(村田有司)	2～	春		
	旅行業論Ⅱ	2	選	講	(村田有司)	2～	春		
	旅行実務論Ⅰ	2	選	講	片山明久	2～	春		
	旅行実務論Ⅱ	2	選	講	片山明久	2～	春	集中講義	
	公務員プログラム講義Ⅰ	2	選	講	大西貴之	3～	春		
	公務員プログラム講義Ⅱ	2	選	講	(小田勇一)	3～	春		
	公務員プログラム講義Ⅲ	2	選	講	大西貴之	3～	秋		
	地域公共政策士総合演習A	1	選	演	山本真一	3～	秋	全8回授業 ※2	
	地域公共政策士総合演習B	1	選	演	杉本星子	3～	秋	全8回授業 ※2	
	地域公共政策士総合演習C	1	選	演	黒宮一太	3～	秋	全8回授業 ※2	
グローバル人材PBL演習	2	選	演	三浦潔	3～	秋	※2		

総合社会学部総合社会学科 2020年度入学生対象

	授業科目等	単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	卒業の要件
資格関連科目	教職概論	2	選	講	大西巧	1～	春	※3	
	教育学概論	2	選	講	大西巧	1～	秋	※3	
	教育史	2	選	講	大西巧	2～	秋	2024年度より非開講 ※3	
	教育社会学	2	選	講	大西巧	2～	春	※3	
	同和教育論	2	選	講	(澤田清人)	2～	秋	※3	
	特別支援教育概論(中・高)	1	選	講	(西山剛司)	3～	秋	※3 全8回授業	
	カリキュラム論	2	選	講	(小林みどり)	3～	秋	※3	
	社会科教育法	2	選	講	澤達大	2～	秋	※3	
	社会科・公民科教育法	2	選	講	(濱良祐)	2～	秋	※3	
	社会科・公民科授業実践論	2	選	講	(島山由紀)	3～	秋	※3	
	授業研究(社会・公民)	2	選	講	澤達大	3～	春	※3	
	道徳教育指導論	2	選	講	(田中潤一)	3～	秋	※3	
	総合的な学習の時間の指導法(中・高)	1	選	講	澤達大	3～	春	※3 全8回授業	
	特別活動論	2	選	講	(浅田瞳) (原清治)	3～	春	集中講義 ※3	
	教育方法・技術論	2	選	講	(真下知子)	3～	春	※3	
	生徒・進路指導論	2	選	講	澤 達大	3～	秋	※3	
	教育相談	2	選	講	(荒井久美子)	3～	春	※3	
	教育実習指導	2	選	演	澤達大	4	春	※3	
	教育実習A	2	選	実	澤達大	4	春/秋	※3	
	教育実習B	4	選	実	澤達大	4	春/秋	※3	
教職実践演習(中・高)	2	選	演	大西巧 ○澤達大	4	秋	※3		
介護等体験特講	1	選	講	大前暁政 ○澤達大 橋本祥夫	3～	秋	※3 全8回授業		
博物館学に関する科目	生涯学習概論	2	選	講	(飯田優美)	2～	春	※3	
	博物館概論	2	選	講	(井上敏)	1～	秋	※3	
	博物館経営論	2	選	講	(田中祥子)	2～	春	※3	
	博物館資料論	2	選	講	(坂本博司)	2～	春	※3	
	博物館資料保存論	2	選	講	(伊達仁美)	2～	春	※3	
	博物館展示論	2	選	講	(荻野裕子)	2～	秋	※3	
	博物館情報・メディア論	2	選	講	(田中祥子)	2～	秋	※3	
	博物館教育論	2	選	講	(五月女賢司)	2～	春	※3	
	博物館実習A	1	選	実	(坂本博司)	2～	秋	※3	
	博物館実習B	1	選	実	(坂本博司)	3～	春	※2 ※3	
	博物館実習C	1	選	実	杉本星子	3～	秋	※2 ※3	

総合社会学部総合社会学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	卒業の要件
資格科目 社会調査士	社会調査入門	2	選	講	(仲尾友貴恵)	1～	春	※3	
	社会調査方法論	2	選	講	(仲尾友貴恵)	1～	秋	※3	
	量的調査法	2	選	講	(西岡暁廣)	2～	春	※3	
△日本文化に関する科目 日本語教師養成プログラム	日本語をまなぶ／おしえる	1	選	講	(平井清実)	1～	秋	※3 全8回授業	
	日本語の歴史と方言	1	選	講	(河本雅一)	2～	春	※3 全8回授業	
	日本語教授法	2	選	講	(安田矩子)	2～	春	※3	
	日本語のしくみ	2	選	講	(河本雅一)	2～	秋	※3	
	音声学	1	選	講	(河本雅一)	3～	春	※3 全8回授業	
	日本語と外国語	1	選	講	奥野克己 金基淑 瀧澤正己 馬場雄司 ○潘宏立 安田ひろみ K.ヤニ	3～	秋	※3 オムニバス 全8回授業	
	日本語教育実習	2	選	実	杉本星子	3～	秋	※2 ※3	

【備考】

- 2022年度入学の3年次編入学生対象
- 用語の解説
区分:「必」→必修、「選」→選択、「選必」→選択必修 授業方法:「講」→講義、「演」→演習、「実」→実習、「験」→実験
- 担当者について
名前に()のついている担当者は、非常勤講師を表す。
- クラス指定の科目について
「履修クラス指定」→履修するクラスが個別に分けられています。
- 科目に関する注意事項
※1 抽選科目
※2 事前登録科目
※3 履修単位数の制限を超えて登録できる科目
▶ クラス分けについての連絡は、掲示板・HPで確認してください。
- その他
○は科目代表者

【卒業の要件】

基盤教育科目							専門科目							その他
KBU アイデンティティ 科目	学習 スキル 科目	ライフ デザイン 科目	ワーク デザイン 科目	ともいき 教養 科目	コミュニケー ション 科目	ともいき 実践 科目	専門基礎 科目	専門基幹 科目	専門展開 科目	基幹演習 科目	実習・表 現・発信 科目	キャリア 構築 科目	キャリア 関連 科目	他学科・単 位互換・資 格関連 科目等
4単位	4単位	4単位	2単位	6単位	8単位	2単位	10単位	12単位	20単位	16単位	2単位	2単位	-	-
30単位(a)							62単位(b)							
32単位(上記いずれの区分からでも良い)(C)														
(a) + (b) + (C)合計124単位														

【卒業要件のよくあるミス】

- ・ 124単位取得したが、ある区分の必要単位数を満たしていなかった
 - ・ 124単位取得したが、修得していない必修・選択必修科目が残っていた
 - ・ 履修登録時点では124単位だったが、最後に単位が取得できなかった
- これらの結果、「1単位不足で卒業できなかった」、「(卒業ができず)内定が取り消された」などの事例が報告されています。必ず、各区分ごとの指定単位数を満たしていること、また、必修・選択必修科目を指定されたとおりすべて修得していることを各自で確認してください。(事務局では卒業の可否チェックは行いません。不明な点があれば、担当教員に相談してください。)

3 臨床心理学部

臨床心理学科の3つのポリシー

<アドミッションポリシー(入学者受け入れ方針)>

「臨床心理学科」では、臨床心理学の専門家としてのみならず社会の幅広い分野において、臨床心理学的な教養を生かしていこうとする意欲ある人、社会における自他のコミュニケーションのあり方に対する洞察力を身につけるとともに、「こころ」に関心を持ち、他者や社会に実際に貢献できる力を身につけようとする人、病気や障害をもつ人たちと共に生きる社会の実現に主体的に取り組もうとする人など、社会の様々な領域において、自己と他者とが共に「生かし合う関係」を主体的に構築しようとする人を入学生として求めている。

<カリキュラムポリシー(教育課程の編成・実施方針)>

「臨床心理学科」では、「全学共通科目・基幹演習科目」(基礎)、「専門コミュニケーション科目・心理学科目・臨床心理学科目」(専門)、「心理学実験査定科目」(実験)、「卒業論文」(研究)など基幹となる科目群を設置している。

さらに、学びの焦点に合わせて「深層心理コース」「子ども・青年心理コース」「医療・福祉心理コース」「ビジネス・経営心理コース」を設け、各コースの特色を生かした授業を実施する。

臨床心理学的な知識や技術を生かして、社会の多様な領域で活躍できる、現場実践力を高めるために、1年次からキャリア関連科目を配当している。より専門的な公認心理師資格、精神保健福祉士資格のために必要な科目群も設置している。

<ディプロマポリシー(学位授与方針)>

「仏教の四弘誓願」を基礎とする建学の精神と臨床心理学的な教養に基づき、自己と他者とが共に「生かし合う関係」を主体的に構築できる人材を社会の様々な分野に送り出すことによって、人間関係が豊かな社会の実現に貢献できる人材の育成を目指す。特に、臨床心理学的援助に対する体験的な学習に基づき、臨床心理学的な知識や技術や方法と言語的、非言語的コミュニケーションの大切さを学び、他者や社会に実際に貢献できる力を養う。

臨床心理学科のカリキュラム

1. カリキュラムの成り立ち

臨床心理学科では、臨床心理学の知識や技術を生かし、社会の多様な領域で活躍できる人材の育成をめざしています。新しい時代を生き抜くために、カウンセリングや心理療法を中心とした臨床心理学の経験と知識を生かした「コミュニケーション力」を育てることを教育の根本にしています。そして、カウンセリング・心理療法などの狭義の心理療法場面にとらわれることなく、より広い視野のもとで人や社会と生きたかかわりを持ち、自分の生きる意欲を見出し、他者を助け、自ら行動できる力をもった社会人を積極的に育成することを基本理念としています。

このような理念のもと、次のような科目群を置いています。

- 「基幹演習科目群」:全学共通科目の初年次演習とあわせて、4年間を通じて演習形式の少人数クラスでの学びを重視した授業を行い、4年次生の卒業論文作成までの指導を行います。臨床心理学科の学生の必修科目となっています。
- 「専門コミュニケーション科目群」:コミュニケーション力を養う上での中核となる科目と、多様な臨床心理学的実践の一端に触れる実践演習科目から構成されます。
- 「専門科目群」:心理学の幅広い領域を学ぶ心理学科目と、心理学実験法や研究法を体験的に学ぶ心理学実験査定科目、本学専任の教員を中心に、臨床心理学の魅力伝える臨床心理学科目から構成されます。

以上に加えて、より幅広い教養を身につけるための全学共通科目群や、より専門的な対人援助力を身につけるための公認心理師資格、精神保健福祉士資格、教員免許資格科目群があります。

臨床心理学科の学生全員へ

履修登録を進めるにあたり、臨床心理学を専門的に学ぶ上でこういった取り方をしていくとより深く臨床心理学を学べるのではないか、という大まかな履修のモデルを、専門科目についてのみ、年次ごとに整理しました。

本学科の専門科目のなかには、卒業するまでにとらなければいけない科目(必修科目)の他、選択科目ではあるものの【積極的な履修を推奨する科目】があります。

これはあくまでモデルですので、このとおりにしなければならないということではありませんが、ぜひ念頭において、カリキュラム表をみながら履修登録を進めてください。

【1年次】

必修科目

「初年次演習」(春)は、全学共通科目ですが、大学で学ぶための基本的な学習スキルを身につける1年次最初のゼミとなります。「コミュニケーションスキル演習」(秋)では、さまざまな課題の実践を通して、より良いコミュニケーションがおこなえるようになることを目指します。

また、講義科目である「臨床心理学概論」(秋)では、臨床心理学の成立の歴史を知り、臨床心理学諸科目で役立つ基本的知識を習得し、学問の全体像をつかむことを目指します。

積極的な履修を推奨する科目

「心理学概論」(春)では、心理学という学問領域において心がどのように解明されてきたのかを知ることを通して、心理学とは何かについての基本的な理解を得ます。

必修科目である「コミュニケーションスキル演習」と並行して秋学期に開講されるのが、講義科目である「臨床コミュニケーション論」(秋)です。実践的な演習とともに履修することでさらなる学びが得られます。また、オムニバスで専任教員が講義をしますので、2年次からのゼミ選択をする際に大いに参考になります。

「臨床心理学とキャリア構築」(春)・「キャリアと自己形成A」(秋)では、本学部の教員や在校生や卒業生の現在に至るまでのキャリアについて話を聞くことも含め、自身の将来のキャリアに臨床心理学をどう活かすかどのような進路選択が可能なのかを考えます。

【2年次】

必修科目

「臨床心理学基礎演習」(春)・「臨床心理学演習」(秋)が2年次のゼミ科目となります。1年次のゼミとは異なり、自分でどのゼミで学ぶかを選択して希望します。

積極的な履修を推奨する科目

「心理学実験入門」(春)では、基礎的な心理学実験を通して、心理学研究法の基礎である実験的アプローチへの理解を深めます。「心理的アセスメント入門」(秋)では、代表的な心理検査を体験し、臨床心理学のひとつの柱である心理査定を学びます。

「臨床心理学実践演習」(春・秋)は本学科の目玉科目のひとつで、抽選エントリー科目となります。心理臨床の実践において用いられるさまざまな心理療法の技法を、自分の興味関心に応じて自由に学ぶことができます。本科目は2年次以降でも履修が可能なので、2年次以降も積極的な履修を推奨します。

また、心理学研究を進める上で大切な科目は、「心理学統計法」(秋)・「心理学研究法」(春)です。「心理学統計法」(秋)では、実験演習や卒業研究において研究計画が立てられるよう、統計学の基礎を学び、「心理学研究法」(春)では、臨床心理学における諸研究計画法とそれに適合したデータ解析方法を身につけます。

【3年次】

必修科目

「臨床心理学研究法演習Ⅰ」(春)・「臨床心理学研究法演習Ⅱ」(秋)が3年次のゼミとなります。3年次ゼミでは、特に秋学期以降は卒業論文に向けた準備をしていきます。

積極的な履修を推奨する科目

「社会に活かす臨床心理学」(春)は、就職活動を前に、改めて自分の進路決定を意識した科目になっています。さまざまな分野(教育・福祉・医療・企業など)で活躍している本学部の卒業生の話は、進路を決定する上でとても役立ちます。

「外国書講読Ⅰ」(春)・「外国書講読Ⅱ」(秋)は、どちらも大学院進学を考えている人に履修を推奨します。この授業では、専門分野の洋書を輪読することで、大学院入試に必要な語学力や専門知識を養います。

【4年次】

必修科目

「臨床心理学総合演習Ⅰ」(春)・「臨床心理学総合演習Ⅱ」(秋)が4年次のゼミになります。3年次ゼミにひきつづき、本格的に「卒業論文」(春・秋)を執筆していきます。

積極的な履修を推奨する科目

「キャリアと自己形成C」(秋)は、特に卒業後、就職する進路を選択する人に履修を推奨します。この授業では、社会人として求められる基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)の涵養を目指します。

また、最終年次ですので、1～3年次に積極的な履修を推奨する科目をもう一度見直し、取りこぼしのないよう履修してください。

2022年度カリキュラム表 臨床心理学部臨床心理学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	必要単位	卒業の要件	
基盤教育科目	KBUアイデンティティ科目										
	仏教入門	2	必	講	(仲宗根充修) ○林雅清	1～	春	履修クラス指定 ※2	2	必修4単位	
	大学入門	1	必	講	林雅清 ○平岡聡	1～	春	全8回授業 履修クラス指定 ※2	1		
地域入門	1	必	講	(石田浩基) ○香川克 清水亜紀子 森正美	1～	秋	全8回授業 履修クラス指定 ※2	1			
	初年次演習	2	必	演	井上嘉孝 上田紗津貴 馬鍾泰 川畑直人 倉西宏 ○清水亜紀子 鈴木孝 千秋佳世 高石浩一 平尾和之 松田真理子 三林真弓	1～	春	履修クラス指定 ※2		必修4単位以上	
	書く技法	2	必	講	(朝田佳尚) (佐藤量) (田島知之) ○平岡聡 (藤井友紀) (山口周子)	1～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは自分で登録			
	情報機器演習	2	選	演	(浅里京子) (岡本久仁子) (枝富喜夫)	1～	春/秋	人数制限あり ※1			
	映像制作活用演習	2	選	演	(寺島亨)	1～	秋	人数制限あり ※1			
	シチズンシップ論	2	選	講	岡本浄実 ○小林康正	1～	春/秋				
キャリアデザイン科目	ライフデザイン科目	人権論	2	選	講	(小泉友則)	1～	秋		4単位以上	
		現代とICT	2	選	講	(枝富喜夫)	1～	春			
		健康科学	2	選	講	岡本浄実 (久米雅)	1～	春/秋			
		生涯スポーツ	2	選	演	(稲井勇仁) ○岡本浄実 (久米雅) (辻哲夫) (三上純)	1～	春/秋	人数制限あり ※1		
		体育実技	1	選	実技	(稲井勇仁) ○岡本浄実 (高山優子)	1～	春/秋	人数制限あり ※1		
	ワークデザイン科目	キャリアと自己形成A	2	選	講	中西勝彦 ○松田真理子 ○三浦潔	1～	秋	履修クラス指定		2単位以上
		キャリアと自己形成B	2	選	講	中西勝彦	3～	春			
		キャリアと自己形成C	2	選	演	中西勝彦	4	秋	2023年度開講		
		地域インターンシップ事前指導	1	選	演	香川克 ○片山明久 黒宮一太 山本真一	2～	春	人数制限あり ※2		
		地域インターンシップ	1	選	実	香川克 ○片山明久 黒宮一太 山本真一	2～	秋	人数制限あり ※2		

臨床心理学部臨床心理学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	必要単位	卒業の要件
ともいき教養科目	海外インターンシップ事前指導	1	選	演	潘宏立	2～	春	人数制限あり ※2	6	6単位以上
	海外インターンシップ	1	選	実	潘宏立	2～	秋	人数制限あり ※2		
	インターンシップ	2	選	実	単位認定委員会	2～	秋	人数制限あり ※2 ※3		
	仏教学	2	選	講	平岡聡	1～	秋		6	6単位以上
	浄土学	2	選	講	林雅清	2～	秋			
	宗教学	2	選	講	(朝香知己)	1～	秋			
	哲学	2	選	講	(笹岡健太)	1～	春			
	倫理学	2	選	講	(笹岡健太)	1～	秋			
	文学論	2	選	講	(千古利恵子)	1～	春			
	歴史学	2	選	講	(澤田裕子)	1～	春			
	芸術論	2	選	講	(今村美邦子)	1～	春			
	民俗学	2	選	講	小林康正	1～	秋			
	日本国憲法	2	選	講	大西貴之	1～	春			
	宇宙の科学	2	選	講	(磯部洋明)	2～	秋			
	生命の科学	2	選	講	(大西雄二)	2～	秋			
	環境論	2	選	講	(阪元勇輝)	1～	秋			
	社会科学論	2	選	講	鶴飼正樹	1～	秋			
	統計学	2	選	講	(西岡暁廣)	1～	春			
	言語と社会	2	選	講	K.ヤニ	1～	春			
	社会福祉	2	選	講	(森合真一)	2～	春			
英語コミュニケーションⅠ	1	必	演	(工藤敦子) (菊川和彦) 陸君 (J.アカザワ) (C.ウリス) (S.キャンベル) (S.トマシェフスキ) (P.トゥーファー) (J.ホーヴィー) OL.S.リビー	1～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選 ※1	6	必修8単位以上	
英語コミュニケーションⅡ	1	必	演	(工藤敦子) (菊川和彦) 陸君 (J.アカザワ) (C.ウリス) (S.キャンベル) (S.トマシェフスキ) (P.トゥーファー) (J.ホーヴィー) OL.S.リビー	1～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選 ※1			
英語コミュニケーションⅢ	1	必	演	○瀧澤正己 中窪靖 (増田純一) (C.ウリス) (J.コーエン) (P.トゥーファー) (J.ホーヴィー) L.S.リビー	2～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選 ※1			
英語コミュニケーションⅣ	1	必	演	○瀧澤正己 中窪靖 (増田純一) (C.ウリス) (J.コーエン) (P.トゥーファー) (J.ホーヴィー) L.S.リビー	2～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選 ※1			

臨床心理学部臨床心理学科 2020年度入学生対象

授業科目等	単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	必要単位	卒業の要件
コミュニケーション科目	英語リーディングⅠ	1	必	演	(柏原陽子) (菊川和彦) (工藤敦子) (杉原由里子) 瀧澤正己 ○中窪靖 (林峰子) (原田靖也) (藤原和彦) (森川康子)	1～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選※1	8
	英語リーディングⅡ	1	必	演	(柏原陽子) (菊川和彦) (工藤敦子) (杉原由里子) 瀧澤正己 ○中窪靖 (林峰子) (原田靖也) (藤原和彦) (森川康子)	1～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選※1	
	英語リーディングⅢ	1	必	演	(有本好一郎) (菊川和彦) (杉原由里子) 中窪靖 (増田純一) (宮本晴子) (山口和夫) ○陸君 (J.ホーヴィー)	2～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選 ※1	
	英語リーディングⅣ	1	必	演	(有本好一郎) (菊川和彦) (杉原由里子) 中窪靖 (増田純一) (宮本晴子) (山口和夫) ○陸君 (J.ホーヴィー)	2～	春/秋	履修クラス指定 ※2 再履修クラスは抽選 ※1	
	英語コミュニケーションⅤ	1	選	演	L.S.リバー	3～	春	人数制限あり ※1	
	英語コミュニケーションⅥ	1	選	演	瀧澤正己 陸君	3～	秋	人数制限あり ※1	
	英語リーディングⅤ	1	選	演	中窪靖 (山口和夫)	3～	春	人数制限あり ※1	
	英語リーディングⅥ	1	選	演	中窪靖	3～	秋	人数制限あり ※1	
	フランス語Ⅰ	1	選	演	(本多雄一郎)	1～	春	人数制限あり ※1	
	フランス語Ⅱ	1	選	演	(本多雄一郎)	1～	秋	人数制限あり ※1	
	フランス語Ⅲ	1	選	演	(本多雄一郎)	2～	春	人数制限あり ※1	
	フランス語Ⅳ	1	選	演	(本多雄一郎)	2～	秋	人数制限あり ※1	
	ドイツ語Ⅰ	1	選	演	(寺澤大奈)	1～	春	人数制限あり ※1	
	ドイツ語Ⅱ	1	選	演	(寺澤大奈)	1～	秋	人数制限あり ※1	
	ドイツ語Ⅲ	1	選	演	(寺澤大奈)	2～	春	人数制限あり ※1	
	ドイツ語Ⅳ	1	選	演	(寺澤大奈)	2～	秋	人数制限あり ※1	
スペイン語Ⅰ	1	選	演	(大久保英子)	1～	春	人数制限あり ※1		
スペイン語Ⅱ	1	選	演	(大久保英子)	1～	秋	人数制限あり ※1		
スペイン語Ⅲ	1	選	演	(北條ゆかり)	2～	春	人数制限あり ※1		
スペイン語Ⅳ	1	選	演	(北條ゆかり)	2～	秋	人数制限あり ※1		

臨床心理学部臨床心理学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	必要単位	卒業の要件
	中国語Ⅰ	1	選	演	○林雅清 潘宏立 (劉建)	1～	春/秋	人数制限あり ※1	2	2単位以上
	中国語Ⅱ	1	選	演	○林雅清 潘宏立 (劉建)	1～	秋	人数制限あり ※1		
	中国語Ⅲ	1	選	演	林雅清	2～	春	人数制限あり ※1		
	中国語Ⅳ	1	選	演	林雅清	2～	秋	人数制限あり ※1		
	韓国語Ⅰ	1	選	演	(平井清実) ○安田ひろみ	1～	春	人数制限あり ※1		
	韓国語Ⅱ	1	選	演	(平井清実) ○安田ひろみ	1～	秋	人数制限あり ※1		
	韓国語Ⅲ	1	選	演	(平井清実)	2～	春	人数制限あり ※1		
	韓国語Ⅳ	1	選	演	(平井清実)	2～	秋	人数制限あり ※1		
	日本手話Ⅰ	1	選	演	(物井明子)	1～	春	人数制限あり ※1		
	日本手話Ⅱ	1	選	演	(物井明子)	1～	秋	人数制限あり ※1		
ともいき実践科目	プロジェクト・地域ボランティア入門	1	選	演	中西勝彦	1～	秋			
	地域ボランティア演習A	2	選	演	大西巧 ○小林康正 島田香 ○平岡聡	2～	春/秋	人数制限あり ※1		
	地域ボランティア演習B	1	選	演	小林康正 ○平岡聡	2～	春/秋	人数制限あり ※1		
	プロジェクト科目IA	2	選	演	(稲井勇仁) 岡本浄実 (岸岡洋介) 小林大祐 小林康正 澤達大 多湖雅博 (谷家優子) 中西勝彦 (中山良子) 安田ひろみ	2～	春	人数制限あり ※1		
	プロジェクト科目IB	2	選	演	(稲井勇仁) 岡本浄実 黒宮一太 小林大祐 中西勝彦 (中山良子) 林雅清 松田美枝 安田ひろみ	2～	秋	人数制限あり ※1		
	プロジェクト科目II	2	選	演	岡本浄実 小林康正 澤達大 (谷家優子) 中西勝彦	3～	春/秋	人数制限あり ※1		
	セルフアセスメント演習	1	選	演	平岡聡 未定	4～	春/秋	2023年度開講		

臨床心理学部臨床心理学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	卒業の要件
専門科目 基幹演習科目群	コミュニケーションスキル演習	2	必	演	井上嘉孝 上田紗津貴 倉西宏 清水亜紀子 ○鈴木孝 千秋佳世 高石浩一 名取琢自 二本柳覚 濱野清志 松田美枝 未定	1～	秋	履修クラス指定 ※2	必修16単位
	臨床心理学基礎演習	2	必	演	井上嘉孝 禹鍾泰 香川克 倉西宏 清水亜紀子 千秋佳世 高石浩一 名取琢自 二本柳覚 濱野清志 平尾和之 松田真理子 三林真弓	2～	春	履修クラス指定 ※2	
	臨床心理学演習	2	必	演	井上嘉孝 禹鍾泰 川畑直人 倉西宏 清水亜紀子 千秋佳世 高石浩一 二本柳覚 平尾和之 松田真理子 松田美枝 三林真弓	2～	秋	履修クラス指定 人数制限あり ※2	
	臨床心理学研究法演習Ⅰ	2	必	演	井上嘉孝 禹鍾泰 香川克 川畑直人 倉西宏 清水亜紀子 千秋佳世 高石浩一 名取琢自 濱野清志 平尾和之 松田真理子 松田美枝 三林真弓	3～	春	人数制限あり ※2	

臨床心理学部臨床心理学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	卒業の要件
専門科目 基幹演習科目群	臨床心理学研究法演習Ⅱ	2	必	演	井上嘉孝 禹鍾泰 香川克 川畑直人 倉西宏 清水亜紀子 千秋佳世 高石浩一 名取琢自 濱野清志 平尾和之 松田真理子 松田美枝 三林真弓	3~	秋	人数制限あり ※2	
	臨床心理学総合演習Ⅰ	2	必	演	井上嘉孝 禹鍾泰 香川克 川畑直人 倉西宏 千秋佳世 高石浩一 名取琢自 濱野清志 平尾和之 松田真理子 松田美枝 三林真弓	4	春	人数制限あり ※2	
	臨床心理学総合演習Ⅱ	2	必	演	井上嘉孝 禹鍾泰 香川克 川畑直人 倉西宏 千秋佳世 高石浩一 名取琢自 濱野清志 平尾和之 松田真理子 松田美枝 三林真弓	4	秋	人数制限あり ※2	
	卒業論文	2	必	-	井上嘉孝 禹鍾泰 香川克 川畑直人 倉西宏 千秋佳世 高石浩一 名取琢自 濱野清志 平尾和之 松田真理子 松田美枝 三林真弓	4	春/秋	履修登録不要	

臨床心理学部臨床心理学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	卒業の要件	
専門科目群	専門コミュニケーション科目群	臨床コミュニケーション論	2	選	講	井上嘉孝 禹鍾泰 香川克 川畑直人 倉西宏 清水亜紀子 千秋佳世 高石浩一 名取琢自 二本柳覚 濱野清志 ○平尾和之 松田真理子 松田美枝 三林真弓	1～	秋	オムニバス	4単位以上
		臨床心理学実践演習(カウンセリング1)	1	選	演	鈴木孝	2～	春/秋	人数制限あり ※1 全8回授業 各学期1科目のみ 履修可能。 ただし、下記科目から1科目に限り追加履修を可とする。 臨床心理学実践演習 グループアプローチ1 グループアプローチ2 グループアプローチ3 「臨床心理学実践演習(カウンセリング4)」「臨床心理学実践演習(芸術療法2)」「臨床心理学実践演習(精神科診断学)」は2022年度非開講	
		臨床心理学実践演習(カウンセリング2)	1	選	演	香川克	2～	春		
		臨床心理学実践演習(カウンセリング3)	1	選	演	上田紗津貴	2～	秋		
		臨床心理学実践演習(カウンセリング4)	1	選	演	-	2～	秋		
		臨床心理学実践演習(芸術療法1)	1	選	演	松田真理子	2～	春/秋		
		臨床心理学実践演習(芸術療法2)	1	選	演	-	2～	春/秋		
		臨床心理学実践演習(芸術療法3)	1	選	演	濱野清志	2～	秋		
		臨床心理学実践演習(箱庭療法1)	1	選	演	千秋佳世	2～	春/秋		
		臨床心理学実践演習(箱庭療法2)	1	選	演	-	2～	秋		
		臨床心理学実践演習(箱庭療法3)	1	選	演	名取琢自	2～	秋		
		臨床心理学実践演習(箱庭療法4)	1	選	演	清水亜紀子	2～	春/秋		
		臨床心理学実践演習(夢分析1)	1	選	演	禹鍾泰	2～	春/秋		
		臨床心理学実践演習(夢分析2)	1	選	演	名取琢自	2～	春		
		臨床心理学実践演習(夢分析3)	1	選	演	井上嘉孝	2～	春/秋		
		臨床心理学実践演習(フォーカシング)	1	選	演	(矢野キエ)	2～	春		
		臨床心理学実践演習(マインドフルネス)	1	選	演	三林真弓	2～	春		
		臨床心理学実践演習(ボディワーク)	1	選	演	濱野清志	2～	春		
臨床心理学実践演習(ダンス/ムーブメントセラピー)	1	選	演	(廣瀬優希)	2～	春/秋				
臨床心理学実践演習(グループアプローチ1)	1	選	演	高石浩一	2～	秋				
臨床心理学実践演習(グループアプローチ2)	1	選	演	名取琢自	2～	秋				
臨床心理学実践演習(グループアプローチ3)	1	選	演	三林真弓	2～	秋				
臨床心理学実践演習(精神科診断学)	1	選	演	-	2～	春/秋				
心理演習	2	選	演	井上嘉孝 禹鍾泰 香川克 川畑直人 倉西宏 清水亜紀子 ○千秋佳世 高石浩一 中島恵子 名取琢自 濱野清志 平尾和之 松田真理子 三林真弓 山崎基嗣	3～	春	・人数制限あり ※2 ・履修クラス指定			
心理実習A	1	選	実	井上嘉孝 香川克 川畑直人 ○倉西宏 千秋佳世 高石浩一 濱野清志 平尾和之 松田真理子 山崎基嗣	3～	秋	・人数制限あり ※2 ・履修クラス指定			

臨床心理学部臨床心理学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	卒業の要件
専門科目群 ユニバーシオン科目群	心理実習B	1	選	実	井上嘉孝 禹鍾泰 香川克 ○倉西宏 清水亜紀子 名取琢自 濱野清志 三林真弓	4	春	・人数制限あり ※2 ・履修クラス指定	
	外国書講読Ⅰ	2	選	演	(細川亜希)	3～	春秋		
	外国書講読Ⅱ	2	選	演	(細川亜希)	3～	春秋		
	臨床心理学とキャリア構築	1	選	講	清水亜紀子	1～	春	全8回授業	
専門科目群 (心理学科目)	社会に活かす臨床心理学	1	選	講	禹鍾泰	3～	春	全8回授業	必修2単位を含め、34単位以上
	心理学概論	2	選	講	井上嘉孝	1～	春		
	知覚・認知心理学	2	選	講	(西山慧)	2～	春		
	学習・言語心理学	2	選	講	(後藤崇志)	2～	秋		
	感情・人格心理学	2	選	講	山崎基嗣	2～	秋		
	神経・生理心理学	2	選	講	中島恵子	2～	春		
	発達心理学	2	選	講	(西元直美)	2～	春		
	教育心理学	2	選	講	(松島るみ)	2～	春		
	社会心理学	2	選	講	(難波久美子)	2～	秋		
	心理学統計法	2	選	講	○上田紗津貴 鈴木孝 未定	2～	秋		
心理学研究法	2	選	講	上田紗津貴 ○鈴木孝	2～	春			
専門科目群 (心理学実験査定科目)	心理学実験入門	2	選	験	井上嘉孝 上田紗津貴 ○鈴木孝 (茂本由紀) (鈴木史子)	2～	春	・人数制限あり ※2 ・履修クラス指定 ・週2コマ開講	
	心理的アセスメント入門	2	選	験	上田紗津貴 倉西宏 ○鈴木孝 (鈴木史子) 未定	2～	秋	・人数制限あり ※2 ・履修クラス指定 ・週2コマ開講	
	心理学実験	2	選	演	上田紗津貴 ○清水亜紀子 鈴木孝 (西山慧)	3～	春	・人数制限あり ※2 ・履修クラス指定	
	心理的アセスメント	2	選	演	上田紗津貴 ○清水亜紀子 鈴木孝 未定	3～	秋	・人数制限あり ※2 ・履修クラス指定	
専門科目群	臨床心理学概論	2	必	講	濱野清志	1～	秋		
	物語と臨床心理学	2	選	講	倉西宏	1～	秋		
	宗教と臨床心理学	2	選	講	(西平直)	2～	春	集中講義	
	カウンセリング心理学	2	選	講	三林真弓	2～	春		
	心理療法学	2	選	講	高石浩一	2～	春		
	日本の心理療法	2	選	講	(田中櫻子)	2～	秋		
	芸術療法	2	選	講	千秋佳世	2～	秋		
	深層臨床心理学	2	選	講	名取琢自	2～	春		
	精神分析学	2	選	講	(鈴木健一)	2～	春	集中講義	
	ユング心理学	2	選	講	禹鍾泰	2～	春		
	トランスパーソナル心理学	2	選	講	(鏡リュウジ) ○濱野清志	2～	春		
	子ども学	2	選	講	三林真弓	2～	秋		
	発達臨床学	2	選	講	(柴田長生)	2～	秋		
青年の心理と行動	2	選	講	香川克	1～	秋			

臨床心理学部臨床心理学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	卒業の要件
臨床心理学科目	社会・集団・家族心理学	2	選	講	名取琢自	2～	秋		
	コミュニティ心理学	2	選	講	(難波愛)	2～	春		
	教育・学校心理学	2	選	講	香川克	2～	春		
	セクシュアリティと心理臨床	2	選	講	(葛西真記子)	2～	春	集中講義	
	健康・医療心理学	2	選	講	松田真理子	2～	春		
	精神疾患とその治療Ⅰ	2	選	講	平尾和之	2～	春		
	精神疾患とその治療Ⅱ	2	選	講	平尾和之	2～	秋		
	精神保健学A	2	選	講	松田美枝	3～	春		
	精神保健学B	2	選	講	松田美枝	3～	秋		
	福祉心理学	2	選	講	松田美枝	2～	春		
	障害者・障害児心理学	2	選	講	(金山由美)	2～	秋		
	司法・犯罪心理学	2	選	講	川畑直人	2～	秋		
対人社会心理学	2	選	講	川畑直人	2～	春			
専門科目群	産業・組織心理学	2	選	講	川畑直人 ○中島恵子	2～	秋		
	公認心理師の職責	2	選	講	川畑直人	4	秋		
	心理学的支援法	2	選	講	川畑直人	2～	秋		
	関係行政論	2	選	講	二本柳覚	3～	秋		
	保健医療サービス	2	選	講	-	1～	秋	非開講	
	人体の構造と機能及び疾病	2	選	講	(石岡千寛)	1～	春		
	精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	2	選	講	二本柳覚	2～	春	「ソーシャルワークの基盤と専門職」と読替	
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2	選	講	-	2～	秋	非開講	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開A	2	選	講	松田美枝	2～	春	「ソーシャルワークの理論と方法A」と読替	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開B	2	選	講	松田美枝	2～	秋	「ソーシャルワークの理論と方法B」と読替	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開C	2	選	講	二本柳覚	3～	春		
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開D	2	選	講	二本柳覚	3～	秋		
精神保健福祉科目	精神保健福祉に関する制度とサービスA	2	選	講	-	2～	春	非開講	
	精神保健福祉に関する制度とサービスB	2	選	講	-	2～	秋	非開講	
	精神障害者の生活支援システム	2	選	講	(菊池彰倫)	3～	春		
	社会保障A	2	選	講	(齋藤拓)	2～	秋		
	社会保障B	2	選	講	(齋藤拓)	3～	春		
	低所得者に対する支援と生活保護制度	2	選	講	(奥森祥陽)	3～	春	2023年度以降非開講	
	福祉行財政と福祉計画	2	選	講	(各務勝博)	3～	秋	2023年度以降非開講	
	権利擁護と成年後見制度	2	選	講	(森朋子)	3～	春		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	選	講	(佐藤貴宣)	2～	春	「障害者福祉」と読替	
	臨床福祉実習指導A	1	選	演	-	2～	春	非開講	
	臨床福祉実習指導B	1	選	演	-	2～	秋	非開講	
	臨床福祉実習A	1	選	実	二本柳覚 ○松田美枝	2～	春	人数制限あり ※1	
臨床福祉実習B	1	選	実	二本柳覚 ○松田美枝	2～	秋	人数制限あり ※1		
社会科学系科目群	社会学概説	2	選	講	(翁和美)	1～	秋		4単位以上
	法学概説	2	選	講	(松久和彦)	1～	春		
	政治学概説	2	選	講	(中島啓勝)	1～	秋	2024年度以降非開講	
	経済学概説	2	選	講	(陳偉業)	1～	春		
	国際法概説	2	選	講	(上地瑠美子)	1～	秋	2024年度以降非開講	
	社会福祉原論A	2	選	講	(森合真一)	1～	秋		
	社会福祉原論B	2	選	講	(森合真一)	2～	春		
	地域福祉の理論と方法A	2	選	講	(各務勝博)	3～	春		
地域福祉の理論と方法B	2	選	講	(各務勝博)	3～	秋			
資格関連科目	教職概論	2	選	講	大西巧	1～	春	※3	
	教育学概論	2	選	講	大西巧	1～	秋	※3	
	教育史	2	選	講	大西巧	2～	秋	※3	2024年度以降非開講
	教育社会学	2	選	講	大西巧	2～	春	※3	
	同和教育論	2	選	講	(澤田清人)	2～	秋	※3	
	特別支援教育概論(中・高)	1	選	講	(西山剛司)	3～	秋	※3	
	カリキュラム論	2	選	講	(小林みどり)	3～	秋	※3	
	社会科教育法	2	選	講	澤達大	2～	秋	※3	
	社会科・公民科教育法	2	選	講	(濱良祐)	2～	秋	※3	
	社会科・公民科授業実践論	2	選	講	(島本由紀)	3～	秋	※3	
授業研究(社会・公民)	2	選	講	澤達大	3～	春	※3		

臨床心理学部臨床心理学科 2020年度入学生対象

授業科目等		単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	卒業の要件	
資格関連科目	する科目	総合的な学習の時間の指導法(中・高)	1	選	講	澤達大	3~	春	※3	
		特別活動論	2	選	講	(浅田瞳) (原清治)	3~	春	集中講義 ※3	
		教育方法・技術論	2	選	講	(真下知子)	3~	春	※3	
		生徒・進路指導論	2	選	講	澤達大	3~	秋	※3	
		教育相談	2	選	講	(荒井久美子)	3~	春	※3	
		教育実習指導	2	選	演	澤達大	4	春	※3	
		教育実習A	2	選	実	澤達大	4	春/秋	※3	
		教育実習B	4	選	実	澤達大	4	春/秋	※3	
	精神保健福祉士に関する科目	教職実践演習(中・高)	2	選	演	大西巧 ○澤達大	4	秋	※3	
		精神保健福祉援助演習(基礎)	2	選	演	松田美枝	3~	春	※2 ※3	
		精神保健福祉援助演習(専門)A	2	選	演	松田美枝	3~	秋	※2 ※3 2023年度以降非開講	
		精神保健福祉援助演習(専門)B	1	選	演	松田美枝	4	春	※2 ※3 全8回授業	
		精神保健福祉援助演習(専門)C	1	選	演	松田美枝	4	秋	※2 ※3 全8回授業	
		精神保健福祉援助実習指導ⅠA	2	選	演	二本柳覚	3~	春	※2 ※3	
		精神保健福祉援助実習指導ⅠB	1	選	演	二本柳覚	3~	秋	※2 ※3 全8回授業	
		精神保健福祉援助実習指導ⅡA	2	選	演	二本柳覚	4	春	※2 ※3	
		精神保健福祉援助実習指導ⅡB	1	選	演	二本柳覚	4	秋	※2 ※3 全8回授業	
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	3	選	実	二本柳覚 ○松田美枝	3~	春	※2 ※3	
精神保健福祉援助実習Ⅱ	2	選	実	○二本柳覚 松田美枝	4	春	※2 ※3			

【備考】

- 2022年度入学の3年次編入学生対象
- 用語の解説
区分:「必」→必修、「選」→選択、「選必」→選択必修
授業方法:「講」→講義、「演」→演習、「実」→実習、「験」→実験
- 担当者について
名前に()のついている担当者は、非常勤講師を表す。
- クラス指定の科目について
「履修クラス指定」→履修するクラスが個別に分けられています。
- 科目に関する注意事項
※1 抽選科目
※2 事前登録科目
※3 履修単位数の制限を超えて登録できる科目
▶ クラス分けについての連絡は、掲示板・UNIPA・Webページ等で確認してください。
- その他
○は科目代表者

【卒業の要件】

基盤教育科目							専門科目						その他	
KBUアイデンティティ科目	学習スキル科目	ライフデザイン科目	ワークデザイン科目	ともいき教養科目	コミュニケーション科目	ともいき実践科目	基幹演習科目群	専門コミュニケーション科目群	心理学科目	心理学実験査定科目	臨床心理学科目	精神保健福祉科目	社会科学系科目	他学科、単位互換、免許資格、科目等
4単位	4単位	4単位	2単位	6単位	8単位	2単位	16単位	4単位	34単位			4単位	—	
30単位(a)							58単位(b)							
36単位(上記いずれの区分からでも良い) (c)														
(a) + (b) + (c) 合計 124単位														

【卒業要件のよくあるミス】

- ・ 124単位取得したが、ある区分の必要単位数を満たしていなかった
- ・ 124単位取得したが、修得していない必修・選択必修科目が残っていた
- ・ 履修登録時点では124単位だったが、最後に単位が取得できなかった

これらの結果、「1単位不足で卒業できなかった」、「(卒業ができません)内定が取り消された」などの事例が報告されています。
必ず、各区分ごとの指定単位数を満たしていること、また、必修・選択必修科目を指定されたとおりすべて修得していることを各自で確認してください。
(事務局では卒業の可否チェックはいたしかねます。不明な点があれば、担当教員にご相談ください。)

3 こども教育学部

こども教育学科の3つのポリシー

I. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

こども教育学科では、京都文教大学がめざす「ともいき(共生)力」を基盤に据えながら、小学校教員・幼稚園教員・保育士の養成教育課程を通して、こどもの教育・保育に携わるための専門的かつ総合的な知識・技術や実践力を持ち、「こどもの最善の利益」を第一に考え行動できる人材を育成します。

特に、現場での教育・保育実践を重視し、教育・保育者として「学び続ける」ことができ、個々のこどもやその家族背景などを理解して教育・援助を行うという「臨床学的なこども教育」の視点を持つ、実践力のある人材を育成します。

具体的には、こどもの専門職である教育・保育者として、下記の力を発揮できるための知見と感性を身につけた人に対して学位を授与します。

(1) 教育・保育者として必要な資質・能力

- ・教育・保育専門職の基盤となる使命感、倫理観、教育的愛情を有すること。
- ・教科・領域内容の理解と授業・保育展開についての構想と評価能力を有すること。
- ・個と集団の育成と指導について計画、指導・支援、評価を行うことができること。

(2) 「臨床学的なこども教育」の視点に基づく資質・能力

- ・こどもの個性や多様性を深く理解し、こどもを取り巻く状況について多面的に把握できること。
- ・深いこども理解に根ざした公正的・受容的態度で、こどもを指導することができること。
- ・教育・保育者の立場から、保護者をはじめとする関係者に対する相談援助を行うことができること。

(3) 教育・保育者として「学び続ける」ことのできる資質・能力

- ・自己省察力と課題探究力をもって学問的知識や探究方法を学び続けることができること。
- ・チームや組織、地域社会の一員としての自覚を持ち、他者との適切な関係と協力のもとに実践を継続して、教育・保育者としての資質・能力を高めることができること。
- ・教育・保育活動を通じて豊かな地域社会づくりに貢献できること。

II. 教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)

本学科では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、以下のような教育課程、教育方法、教育評価の方針に基づいて教育を行います。

(1) 教育課程の編成

1. 確かな学力を身につけさせ、個々の子どもを理解し支援できる実力ある教師・保育者を養成するために、本学科に小学校教育コース、幼児教育コースの2つの履修コースを設置する。
2. 実力ある教師・保育者を目指して「学び続ける姿勢」を身につけるために、各年次に配置されているゼミ科目体系と、同じく各年次に配置されているインターンシップ・各種実習などの科目体系を、教育課程の中核に据える。
3. 実力ある教師・保育者を養成するために、各免許・資格課程で定められている講義科目と演習科目(実技科目を含む)を学修段階に沿って各年次に配置し、2.で示した「ゼミ及び各種インターンシップ・実習」と連動させた形で教育課程を構築する。

4. 個々の子どもや家族を理解し支援できる教師・保育者を養成するために、子ども理解・支援に関する科目を、学修段階に沿って各年次に配置する。2. 3.の科目群に対して相互補完的に学修出来るように、それらと連動した教育課程体系を構築する。
5. 4.で養成する資質・能力を更に高めるために、本学科独自の専門科目群として、教育隣接領域の幅広い専門知見から、教師・保育者が必要とする内容を選びすぎた「発展科目群」を設定し、卒業必修単位として高年次を中心に教育課程の中に位置づける。更に、臨床心理学科に設置されている臨床心理学専門科目など、本学他学科科目・単位互換科目などの履修を通じて、知見を広げることを推奨する。
6. 将来の現場実践に資するために、器楽・造形・体育・遊びなどの技能修得科目を選択科目として設定し、少人数体制で学修する。

(2)教育方法

1. 教育実践現場や、実際の子ども達からの学びを深めるために、大学と教育現場を往来して学ぶ「現場往還教育」を重視し、4年間を通して現場から学修する機会を設定する。また、担当教員と現場実践経験が豊富な教職サポートセンター職員との緊密な連携による、「現場実践教育」を展開する。
2. 資格取得に必要な各講義科目・演習科目の全てにおいて、必要とされる教育学・保育学の専門知見の修得による学力の形成と、それらの専門知見が個々の子ども理解・支援にどのように役立つのかを学ぶという、ディプロマ・ポリシーに定めた「二方向の学修意図」が総合的に達成されるように、設定される全専門科目のシラバス構築や授業展開の際に考慮する。
3. ゼミ教育を重視し、1年次から4年次まで、すべてのセメスターで少人数ゼミ形式の授業を設定する。ゼミ担当教員は、ゼミ学生の履修指導や就職支援など、担任として種々の面からサポートする。
4. 多様な教育実践力を主体的に身につけるために、アクティブラーニングを積極的に導入する。また教育・保育・福祉ボランティアなどの課外活動への参加を積極的に推奨し、教職員がサポートする。
5. 4年間をとおして開設されている、インターンシップ・各種現場実習などの運営や履修などについては、免許・資格課程委員会において随時マネジメントし、実習実施体制の確保、実習機関との調整、各学生の履修指導などを行う。
6. 先輩から後輩への体験の伝承を重視し、学生のキャリア形成に資するために、実習報告会、卒論発表会、卒業生との交流会などを開催する。

(3)教育評価

1. 学生レベルの評価は、各科目のシラバスに定める到達目標の達成度、教職・保育職履修カルテ評価項目、ディプロマ・ポリシー記載事項に対する到達度、および卒業論文の成果等によって行う。評価は基本的に学期毎に行う学生による自己評価と教員によるチェックの双方向評価体制によって行い、各時期に応じた適切な指導を行う。
2. 学科レベルの評価は、別途定めるカリキュラム・アセスメント・ポリシーにより行う。具体的には、ディプロマ・ポリシー記載項目への到達を最終目標とし、カリキュラムマップ及びカリキュラムチェックリストを評価尺度としながら、学科全学生の単位修得状況、及び1.に示した各評価項目の学科全体の動向などについて、継続的・統計的に把握することによって行う。
3. 教育評価に際しては、全学的に導入されている「自己評価システム(アセスメンター)」を積極的に活用する。また、評価の信頼性・妥当性を高めるために、学生による自己評価を各学年のゼミ授業内で取り組ませ、併せて学生に対して「自己覚知を促すリフレクション活動」をその都度行う。また、客観的な評価方法を確立するために効果的なツール(ルーブリックなど)の積極的な活用を検討する。

Ⅲ. 入学者選抜の方針(アドミッション・ポリシー)

こども教育学科は、教育・保育者を目指す学生に対して、必要な専門的な資質・能力の育成を目指し、一人一人の子どもの心身の発達の段階や特性を考慮し、その家族背景なども十分に理解して「教育及び援助を行うことができる実践力」を身に付けるとともに、教育・保育者として「学び続ける」ことができる生涯学習の力を磨く基盤を形成することを人材育成の目的としています。本学科での学修においては、よりよい社会(ともいき社会)の実現に向けて探究しつづける意欲・態度を持つことができるよう、以下のような学習経験を求めます。

1. 高等学校卒業程度の「必履修教科・科目」を中核とした教科・科目の知識・技能を十分に習得していること。
2. 高等学校における「教科・科目」、「総合的な学習の時間」、「学校設定教科・科目」などの学習において、自ら学習課題を設定し、創意工夫を行い、その課題の解決に取り組んだ経験を説明できること。
3. 高等学校の学習において、多くの仲間と協働しながら、各種課題の解決に主体的に取り組んだ経験を説明できること。

こども教育学科のカリキュラム

1. カリキュラムの成り立ち

こども教育学科は、「教育・保育者として必要な資質・能力を身につけ、同時に個々の子どもを理解して指導・支援できる『臨床学的なこども教育』の視点に基づく資質・能力を身につけた上で、教育や保育福祉の領域で活躍でき、生涯『学び続ける』実践力のある専門職を育成する」という目標を持っています。この目標を実現するために、以下のような諸科目群が置かれています。

(1) 教育・保育専門職になるために、4年間を通して学び続ける科目群

① 臨床・実践的ゼミ学修

1年次の「初年次演習」にはじまり、各学年・各学期毎に「ゼミ」に所属し、少人数で臨床・実践的な学びを深めます。学修のゴールは卒論制作になります。

② 教育・保育現場実習

4年間を通して、子どもの現場から学び続けます(現場往還教育)。見学実習にはじまり、各種インターンシップ、各種の教育・保育実習に段階的に参加します。実習内容は選択コースによって異なります。総仕上げとして「教職実践演習(小)」「教職・保育職実践演習」を4年次秋学期に履修します。

(2) 教員・保育者としての基本的な資質・能力を修得する科目群

① 基幹講義科目群

専門資格を取得するために必要な、「教育原論」「教育課程論」などの基本講義が配置されています。この科目群は各コース共通になります。

② 資格専門講義科目群

取得する免許・資格によって履修する内容が異なります。各資格取得に必要な専門知識を学びます。この科目群は選択コースによって異なります。

③ 資格専門実践・演習科目群

取得する免許・資格によって履修する内容が異なります。各資格取得に必要な専門知識・技能の実際を実践・演習形式で学びます。この科目群は選択コースによって異なります。

(3) 臨床学的なこども教育の視点に基づく資質・能力を修得する科目群

① 資格専門児童理解科目群

個々の子どもを理解して指導・支援できるように配置された、専門資格を取得するために必要な科目群です。コース共通の科目とコース毎に異なる科目があります。

② 発展科目群

個々の子どもを、更に深く理解して指導・支援できるように配置された、本学独自の科目群です。医学・心理・ソーシャルワーク・現場実践演習など、教育近接領域の専門知見を、履修生の関心に応じて選択履修します。

以上の科目群の個々の科目名称や履修順序などについては、ユニバーサルパスポートにある「カリキュラムマップ」に記載されているので、これを必ず見ることによって、カリキュラム全体を確認してください。また、学年を深める毎に、履修状況の確認と学修到達状況の自己評価を、学期毎に学生自身で行っていただきます(アセスメントプログラム)。この作業を行うことで、カリキュラム全体を更に深く理解することが出来るでしょう。

2. 資格や免許を取得するということ

本学科では、小学校教員・幼稚園教員・保育士として活躍できる人材を育成することを目指しています。このような仕事に就くための免許や資格が取得できるのが、本学科の特色です。免許や資格の取得を目指すうえで、次のような点に留意してください。「免許」や「資格」は「こういったことができる人ですよ」ということを証明するものです。その中には、単純に「こういうことができます」ということを表示するだけの資格(典型的なのは、漢字検定や英語検定のような資格です)もあります。一方で「ある訓練を受けていて、その資格に特有なものの方・理解の仕方・能力を持っています」という、専門的な職能を証明するような資格もあります。専門的な職能を証明する資格にも様々なタイプのものがありますが、本学科で取得を目指す小学校・幼稚園教員の免許や、保育士資格は、大まかに言えば、それ以外のものがその肩書きを名乗ることができない免許や資格であるという共通点があります。こうした免許や資格の場合、「免許や資格を『取る』」という側面だけではなく、「その肩書きを持つに相応しい人に『なる』」という側面が重要になってきます。「免許や資格を『取る』」だけではなく、「その肩書きを持つに相応しい人に『なっていくのだ』」という構えをもちながら学習を進めていくことを期待しています。

なお、小学校教員免許、幼稚園教員免許、あるいは保育士資格の取得が卒業のための必須要件ではありませんが、各専門資格を取得するためには、学科が定めている科目をすべて履修することが必要です。

こども教育学部こども教育学科 2020年度入学生対象(基盤教育科目)

区分	授業科目	授業方法	卒業必修	配当開始学期・単位数				資格要件			備考				
				2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		小免	幼免	保育士	
				1年次	2年次	3年次	4年次	春	秋	春					秋
KBUアイデンティティ科目	仏教入門	講義	○	2								*			
	大学入門	講義	○	1									全8回授業		
	地域入門	講義	○		1								全8回授業		
(卒業要件)4単位必修															
学習スキル科目	初年次演習	演習	○	2											
	書く技法	講義	○	(2)	(2)							*			
	情報機器演習	演習		(2)	(2)					*	*				
	映像制作活用演習	演習			2										
(卒業要件)必修4単位を含む6単位以上															
キャリアデザイン科目	シチズンシップ論	講義		(2)	(2)										
	人権論	講義			2							*			
	現代とICT	講義		2											
	健康科学	講義		(2)	(2)					b	b	*	【小免・幼免のみ】		
	生涯スポーツ	演習		(2)	(2)					a	a		左記のa,bより、		
	体育実技	実技		(1)	(1)					b	b	*	いずれか選択必修 (bの場合は2科目)		
(卒業要件)4単位以上															
ワークデザイン科目	キャリアと自己形成A	講義			2										
	キャリアと自己形成B	講義					2								
	キャリアと自己形成C	演習							2						
	地域インターンシップ事前指導	演習				1									
	地域インターンシップ	実習					1								
	海外インターンシップ事前指導	演習				1									
	海外インターンシップ	演習					1								
	インターンシップ	実習						2							
(卒業要件)指定無し															
ともいき教養科目	仏教学	講義			2										
	浄土学	講義				2									
	宗教学	講義			2										
	哲学	講義		2											
	倫理学	講義			2										
	文学論	講義		2											
	歴史学	講義		2											
	芸術論	講義		2											
	民俗学	講義			2										
	日本国憲法	講義		2						*	*				
	宇宙の科学	講義				2									
	生命の科学	講義				2									
	環境論	講義			2										
	社会科学論	講義			2										
	統計学	講義		2											
	言語と社会	講義		2											
	社会福祉	講義				2									
(卒業要件)4単位以上															

こども教育学部こども教育学科 2020年度入学生対象(基盤教育科目)

区分	授業科目	授業方法	卒業必修	配当開始学期・単位数				資格要件			備考				
				2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		小免	幼免	保育士	
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				春	秋	春	秋	春	秋	春					秋
コミュニケーション科目	英語コミュニケーションI	演習	○	(1)	(1)					*	*	*			
	英語コミュニケーションII	演習	○	(1)	(1)					*	*	*			
	英語コミュニケーションIII	演習	○			(1)	(1)								
	英語コミュニケーションIV	演習	○			(1)	(1)								
	英語リーディングI	演習	○	(1)	(1)										
	英語リーディングII	演習	○	(1)	(1)										
	英語リーディングIII	演習	○			(1)	(1)								
	英語リーディングIV	演習	○			(1)	(1)								
	英語コミュニケーションV	演習						1							
	英語コミュニケーションVI	演習							1						
	英語リーディングV	演習							1						
	英語リーディングVI	演習								1					
	フランス語I	演習		1											
	フランス語II	演習			1										
	フランス語III	演習				1									
	フランス語IV	演習					1								
	ドイツ語I	演習		1											
	ドイツ語II	演習			1										
	ドイツ語III	演習				1									
	ドイツ語IV	演習					1								
	スペイン語I	演習		1											
	スペイン語II	演習			1										
	スペイン語III	演習				1									
	スペイン語IV	演習					1								
	中国語I	演習		(1)	(1)										
	中国語II	演習			1										
	中国語III	演習				1									
	中国語IV	演習					1								
	韓国語I	演習		1											
	韓国語II	演習			1										
	韓国語III	演習				1									
	韓国語IV	演習					1								
日本手話I	演習		1												
日本手話II	演習			1											
(卒業要件)必修8単位以上															
ともいき実践科目	プロジェクト・地域ボランティア入門	演習			1										
	地域ボランティア演習A	演習				(2)	(2)								
	地域ボランティア演習B	演習				(1)	(1)								
	プロジェクト科目IA	演習				2									
	プロジェクト科目IB	演習					2								
	プロジェクト科目II	演習						(2)	(2)						
	セルフアセスメント演習	演習								(1)	(1)				
(卒業要件)指定無し															

※ 単位数欄の括弧付きの数字は、各学期毎に開講されることを示す。(単位修得は一度のみ)

こども教育学部こども教育学科 2020年度入学生対象(専門科目)

区分	授業科目	授業方法	卒業必修		単位数								資格要件			他学科履修	備考
			小学校コース	幼教コース	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		小免	幼児	保育士		
					1年次	2年次	3年次	4年次	春	秋	春	秋					
基幹講義科目	教育・保育のための子ども学	講義	○	○	2										○	オムニバス	
	教育原論	講義	○	○		2						*	*	*	○		
	心身の発達と学習過程	講義	○	○			2					*	*	△	○		
	教職入門(小)	講義	○		2							*			-		
	保育・教職入門	講義		○	2								*	*	-		
	教育制度論(小)	講義	○		2							*			○		
	教育制度論(幼)	講義		○	2								*		○		
	教育行政学	講義								2		推奨	推奨		○		
	教育課程論	講義	○	○		2						*	*		○		
	教育方法論	講義	○	○					2			*	*		-		
	教育相談の理論と方法	講義	○	○					2			*	*		○		
	特別支援教育概論	講義	○	○						1		*	*		○	全8回授業	
	発達障害への支援	講義	○	○					2			*	*	△	○		
	イングリッシュスキル	講義				2						推奨	△		-		
基幹講義科目 小計					6	6	4	2	2	4	3	0				(卒業要件)19単位以上	
専門基幹科目群	こども教育学基礎演習	演習	○	○		2									-		
	こども教育学演習I	演習	○	○			2								-		
	こども教育学演習II	演習	○	○				2							-		
	こども教育学研究法演習I	演習	○	○					2						-		
	こども教育学研究法演習II	演習	○	○						2					-		
	こども教育学総合演習I	演習	○	○							1				-	全8回授業	
	こども教育学総合演習II	演習	○	○								1			-	全8回授業	
	卒業論文	演習	○	○									2		-	履修登録不要、過年度生春認定可	
専門基幹科目群 小計					0	2	2	2	2	2	1	3				(卒業要件)14単位以上	
基幹実践科目	学校インターンシップI	実習				1									-	【小学校コース科目】	
	学校インターンシップII	演習	○				1					*			-	【小学校コース科目】全8回授業	
	学校インターンシップIII	演習						1				推奨			-	【小学校コース科目】全8回授業	
	学校インターンシップIV	実習							1						-	【小学校コース科目】	
	学校インターンシップV	実習								1					-	【小学校コース科目】	
	学校インターンシップVI	実習									1				-	【小学校コース科目】	
	学校インターンシップVII	実習										1			-	【小学校コース科目】	
	海外教育インターンシップ	実習					1								-	2022年度非開講	
	介護等体験特講	講義	○					1				*			-	全8回授業	
	教育実習事前事後指導(小)	演習									1	*			-	全8回授業	
	教育実習(小)	実習								4		*			-		
	教職実践演習(小)	演習	○									*			-		
	遊びと育ち実践演習	演習		○		2							△	△	-		
	保育インターンシップ	実習							1						-	【幼教コース科目】全8回授業	
教育実習事前事後指導(幼)	演習								1		*			-	集中講義		
教育実習(幼)	実習								4		*			-			
保育・教職実践演習(幼)	演習		○								*	*		-			
基幹実践科目群 小計					0	3	2	3	1	11	1	5				(卒業要件)4単位以上	
発展科目群	教育・保育のための臨床心理学	講義							2					△	○		
	発達臨床学	講義								2				△	○		
	教育・保育のための心理学的支援の実際	講義								1					-	全8回授業	
	教育・保育のための心理学的査定と観察法	講義								1					-	全8回授業	
	実践教育カンファレンス	講義							1						-	【小学校コース科目】全8回授業	
	実践保育カンファレンス	講義							1						-	【幼教コース科目】全8回授業	
	教育と医学	講義								1					○	全8回授業	
	現代社会とこども・家族	講義							1						○	全8回授業	
	教育・保育現場実践ソーシャルワーク	講義							1						-	全8回授業・集中講義	
発展科目群 合計					0	0	0	0	6	5	0	0				(卒業要件)6単位以上	

こども教育学部こども教育学科 2020年度入学生対象(専門科目)

区分	授業科目	授業方法	卒業必修		単位数								資格要件			他学科履修	備考
			小学校コース	幼教コース	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		小免	幼免	保育士		
					1年次		2年次		3年次		4年次						
			春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋					
初等教育科目	国語	講義	○				2						*			-	
	社会	講義	○				2						*			-	
	算数	講義	○				2						*			-	
	理科	講義	○				2						*			-	
	生活	講義	○			2							*			-	
	音楽	講義	○				2						*			-	
	図画工作	講義	○				2						*			-	
	家庭	講義	○			2							*			-	
	体育	講義	○			2							*			-	
	英語(外国語)	講義	○		2								*			-	
	初等教科教育法(国語)	講義	○						2				*			-	
	初等教科教育法(社会)	講義	○						2				*			-	
	初等教科教育法(算数)	講義	○						2				*			-	
	初等教科教育法(理科)	講義	○						2				*			-	
	初等教科教育法(生活)	講義	○						2				*			-	
	初等教科教育法(音楽)	講義	○						2				*			-	
	初等教科教育法(図画工作)	講義	○						2				*			-	
	初等教科教育法(家庭)	講義	○			2							*			-	
	初等教科教育法(体育)	講義	○			2							*			-	
	初等教科教育法(英語)	講義	○		2								*			-	
	道徳の理論と指導法	講義	○			2							*			-	
	総合的な学習の時間の指導法(小)	講義	○		2								*			-	
	特別活動と進路の指導法	講義	○						2				*			-	
生徒指導の理論と方法	講義	○							2			*			-		
初等教育科目 小計					2	4	8	16	16	2	0	0					
専門職科目群	子どもと健康	演習	○				1						*	*		-	
	子どもと人間関係	演習	○				1						*	*		-	
	子どもと環境	演習	○				1						*	*		-	
	子どもと言葉	演習	○				1						*	*		-	
	子どもと表現	演習	○				1						*	*		-	
	子ども理解の理論と方法	演習	○				2						*	*		-	
	保育内容総論	演習	○				2						*	*		-	
	保育内容 健康	演習	○							2			*	*		-	
	保育内容 人間関係	演習	○							2			*	*		-	
	保育内容 環境	演習	○	2									*	*		-	
	保育内容 言葉	演習	○							2			*	*		-	
	保育内容 表現	演習	○					2					*	*		-	
	器楽実践演習I(入門)	演習				1							△	△		-	全8回授業
	器楽実践演習II(基本)	演習					1						△	△		-	
	器楽実践演習III(発展)	演習							1				△	△		-	全8回授業
	造形実践演習	演習					1						△	△		-	
	子どもと体育	演習								1			△	△		-	
	保育原理	講義				2							△	*		-	
	社会的養護I	講義					2							*		-	
	子ども家庭福祉	講義				2							推奨	△	*	-	
	社会福祉原論A	講義			2									*		-	
	保育の心理学	講義				2							推奨	△	*	-	
	子ども家庭支援の心理学	講義							2					△	*	-	
子どもの保健	講義					2							*		-		
子どもの健康と安全	演習							1					*		-		
子どもの食と栄養	演習					2							*		-		
子ども家庭支援論	講義							2					*		-		

こども教育学部こども教育学科 2020年度入学生対象(専門科目)

区分	授業科目	授業方法	卒業必修		単位数								資格要件			他学科履修	備考
			小学校コース	幼児コース	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		小免	幼児	保育士		
					1年次		2年次		3年次		4年次						
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋					
	子育て支援	演習								1			*	-			
	乳児保育I	講義				2							*	-			
	乳児保育II	演習						1					*	-			
	社会的養護II	演習				1							*	-			
	障がい児保育	演習							2				*	-			
	保育の計画と評価	講義				2							*	-			
	保育実習I(保育所)	実習				2							*	-			
	保育実習指導I(保育所)	演習				1							*	-	全8回授業		
	保育実習I(施設)	実習						2					*	-			
	保育実習指導I(施設)	演習						1					*	-	全8回授業		
	保育実習II	実習								2			どちらか*	-			
	保育実習III	実習								2			*	-			
	保育実習指導II	演習								1			どちらか*	-	全8回授業		
	保育実習指導III	演習								1			*	-	全8回授業		
保育・幼児教育科目 小計					4	5	14	15	14	6	6	0					
専門職科目群 合計					6	9	22	31	30	8	6	0			(卒業要件)40単位以上		
総計					12	20	30	38	41	30	11	8					

【備考】

- 用語の解説
卒業必修：「○」→必修、「空白」→選択
資格要件：「*」→必修、「△」→選択必修、「推奨」→履修することが望ましい
- 一部の科目で抽選や自動登録があります。(別途資料にて案内します)
- 幼稚園教諭免許を取得する者は資格要件欄の*印のほかに、△印科目のうち8単位以上修得必修。
- 保育士資格を取得する者は資格要件欄の*印のほかに、△印科目のうち6単位以上修得必修。
- 各資格の取得方法詳細は履修要項を参照のこと。

【卒業の要件】

基盤教育科目							専門科目					その他
KBUアイデンティティ科目群	学習スキル科目群	ライフデザイン科目群	ワークデザイン科目群	ともいき教養科目群	コミュニケーション科目群	ともいき実践科目群	専門基幹科目群			発展科目群	専門職科目群	他学科・単位互換・資格関連科目群
							基幹講義科目群	基幹演習科目群	基幹実践科目群			
4単位	6単位	4単位	-	4単位	8単位	-	19単位	14単位	4単位	6単位	40単位	-
26単位(a)							83単位(b)					
15単位(上記いずれの区分でもよい)(c)												
(a) + (b) + (c) 合計124単位以上												

【卒業要件のよくあるミス】

- ・ 124単位取得したが、ある区分の必要単位数を満たしていなかった
- ・ 124単位取得したが、修得していない必修・選択必修科目が残っていた
- ・ 履修登録時点では124単位だったが、最後に単位が取得できなかった

これらの結果、「1単位不足で卒業できなかった」、「(卒業ができません)内定が取り消された」などの事例が報告されています。

必ず、各区分ごとの指定単位数を満たしていること、また必修・選択必修科目を指定されたとおりすべて修得していることを各自で確認してください。(事務局では卒業の可否チェックはいたしかねます。不明な点があれば、担当教員にご相談ください。)

大学院カリキュラム

1 臨床心理学研究科

臨床心理学研究科の教育理念と3つのポリシー

<教育の理念>

本研究科は、本学設置の理念である「ともいき(共生)」の精神のもと、臨床心理学の研究ならびに心理臨床の活動に携わる実践的な指導を通して、臨床心理士および公認心理師として必要な専門的知識、技術、態度、視点を身につけ、多様な心理臨床の現場において、臨床心理学的対人援助を展開することができる人材の育成を目的とする。

また、博士後期課程では、上記に加えて、それまでに身につけた臨床心理学専門知識、技術、態度、視点をさらに深化、充実させた研究、教育を展開することができる人材の育成も目的とする。

I. 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

臨床心理学研究科では、教育の理念を踏まえ、以下の能力を身につけ、定められた課程を修了し、学位論文の審査に合格した者に修士または博士の学位を授与する。

【博士前期課程】

多様な心理臨床の現場において、臨床心理学的対人援助の実践を展開する上で必要な専門的知識、技術、態度、視点を身につけており、心理臨床実践を振り返りこの領域に寄与する研究に取り組むことができる。

【博士後期課程】

多様な心理臨床の現場において、臨床心理学的対人援助の実践を展開する上で必要な高度な専門的知識、技術、態度、視点を身につけている。そして、自身の心理臨床実践を振り返り、この領域に寄与し、臨床心理学の発展につながる研究を主体的に推し進め、その成果を踏まえて後進の臨床実践の指導にあたることができる。

II. 教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)

臨床心理学研究科では、次のような教育方針にそって教育課程を編成する。

【博士前期課程】

臨床心理士試験および公認心理師試験に合格し、心理臨床家として活躍できる有能な人材を養成するため、次のような教育方針に沿って教育課程を編成する。

- (1)臨床心理学の研究を通して、臨床心理学をはじめとする諸科学の成果にアクセスし、必要な知識を引き出し分析する専門的なアカデミックスキルを身につけさせる。
- (2)心理療法の実践経験を通して、共感的に他者を理解する姿勢、他者との相互交流に開かれた態度、および倫理観を身につけさせる。
- (3)心理療法、心理査定の理論的学習と実践経験を通して、臨床心理学の専門知識と観察事実を統合し、問題を分析する技術と視点を身につけさせる。

(4)心理臨床が展開する場の構造を分析する視点を身につけさせ、多様な現場で有効な実践を展開させる適応力を備えさせる。

(5)他者の心を理解する前提として、自分の心についての感受性を磨き、自己理解を深める態度を養う。

【博士後期課程】

臨床心理学専門領域において優れた博士論文を作成でき、さらには自立した研究者および指導者となることができるように研究指導科目および臨床研究科目と有機的に連携させた教育課程を編成する。

研究指導は、学生と教員との研究の進捗状況に則した資料および論文草稿を基にした対話を中心として行われ、履修要項に記載されている博士論文作成の流れに則って研究を進めていく。

Ⅲ. 入学者選抜の方針(アドミッション・ポリシー)

臨床心理学研究科では、次のような学生を求めている。

【博士前期課程】

(1)基礎的な臨床心理学の知識と技術をバランスよく身につけ、臨床心理学的な対人援助の実践に献身したいと思う者。

(2)臨床心理学の知識や技術の学習に必要な基本的なアカデミックスキルとコミュニケーション力を持つ者。

(3)自分自身と全体的に向き合い、対人関係に自分を活用できる自己理解力、および他者の心と全体的に向き合い、尊重できる対人関係力を持つ者。

【博士後期課程】

臨床心理学専門領域の修士に相応しい知識・技能及び研究成果を有しており、臨床心理士および公認心理師のいずれかの資格を取得した者、もしくはその見込みのある者で、研究者および心理臨床家として社会に貢献したい意欲を持つ者。

臨床心理学博士の学位取得に向け意欲的に研鑽を重ねるとともに、臨床心理学を幅広い視野をもって捉えることができる者。

2022年度
臨床心理研究科カリキュラム表

博士後期課程 2009年度以降入学生対象

授業科目等	単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	修了の要件	
研究指導科目	臨床心理学研究演習Ⅰ-A	1	必	演	井上嘉孝 禹鍾泰 香川克 川畑直人 倉西宏 高石浩一 名取琢自 濱野清志 平尾和之 松田真理子 三林真弓	1～	春	ゼミ	必修科目6単位を含め、全科目から合計10単位以上を修得し、かつ学位論文を提出し審査に合格すること。
	臨床心理学研究演習Ⅰ-B	1	必	演	井上嘉孝 禹鍾泰 香川克 川畑直人 倉西宏 高石浩一 名取琢自 濱野清志 平尾和之 松田真理子 三林真弓	1～	秋	ゼミ	
	臨床心理学研究演習Ⅱ-A	1	必	演	禹鍾泰 香川克 川畑直人 高石浩一 名取琢自 濱野清志 平尾和之 松田真理子 三林真弓	2～	春	ゼミ	
	臨床心理学研究演習Ⅱ-B	1	必	演	禹鍾泰 香川克 川畑直人 高石浩一 名取琢自 濱野清志 平尾和之 松田真理子 三林真弓	2～	秋	ゼミ	
	臨床心理学研究演習Ⅲ-A	1	必	演	禹鍾泰 香川克 川畑直人 高石浩一 名取琢自 濱野清志 平尾和之 松田真理子 三林真弓	3	春	ゼミ	

臨床心理学研究科 博士後期課程 2009年度以降入学生対象

授業科目等	単位数	区分	授業方法	担当者	履修年次	開講期	備考	修了の要件
臨床心理学研究演習Ⅲ-B	1	必	演	禹鍾泰 香川克 川畑直人 高石浩一 名取琢白 濱野清志 平尾和之 松田真理子 三林真弓	3	秋	ゼミ	
臨床心理応用研究A	2	選	演	—	1～	秋	3年周期開講科目 2023年度開講予定	
臨床心理応用研究B	2	選	演	—	1～	春	3年周期開講科目 2024年度開講予定	
臨床心理応用研究C	2	選	演	濱野清志 松田真理子	1～	秋	3年周期開講科目 2022年度開講	

【修了の要件】

研究指導科目	臨床研究科目	学位論文
合計 10単位 以上		